

**YAMAHA**

# TG300

TONE GENERATOR  
**OWNER'S MANUAL**



GENERAL  
**MIDI**

取扱説明書

# YAMAHA

## TG300

### TO NE GENERATOR

## オーナーズマニュアル

### 取扱説明書

## — ごあいさつ —

このたびは、ヤマハトーンジェネレーターTG300をお買い求めいただきまして、ありがとうございます。

TG300は、ヤマハ独自のAWM2音源と新開発DSPによる高品位な音色を結集した、コンピューターミュージック用音源モジュールです。

コンピューターによるマルチメディア分野のスタンダードな音源として、またシンセサイザーの拡張音源として、どなたでも手軽にお使いいただけます。

TG300の優れた機能を使いこなしていただくために、是非この取扱説明書をご活用いただきますようご案内申し上げます。

また、ご一読いただいた後も不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願い申し上げます。

# 安全にお使いいただくために

TG300は精密機械です。本機をご使用いただくために、次の注意を守り、大切にお取り扱いください。

## 設置場所について



本機を次のような場所でご使用になりますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- ・窓際など直射日光の当たる場所
- ・暖房器具のそば、戸外など極端に寒暖の激しい場所
- ・極端に湿度の高い場所
- ・ホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

## ラックへのマウントや専用スタンドの取付けについて



本機はラックマウントキットRK200（別売）を使ってラックにマウントすることができます。また、机上でお使いいただく場合は、テイルトスタンドTS100(別売)を使って操作しやすい角度で設置することができます。

RK200やTS100をご使用になるときは、必ず付属のネジか本体についているネジを使用してください。

## 電源について



- ・電源は必ず付属のACアダプターPA-1207を使い、AC100Vでご使用ください。付属のACアダプター以外の電源を使用したり、電源電圧の異なる場所でのご使用は絶対におやめください。（ACアダプターは、別売のPA-1210もご使用になれます）
- ・長時間ご使用にならない場合は、ACアダプターを電源コンセントから抜いておいてください。
- ・落雷などの危険がある場合は、ACアダプターを電源コンセントから抜いておいてください。
- ・消費電力の大きな機器と同じコンセントを使用したり、タコ足配線をするとう質が劣化するばかりか、故障などの原因となりますのでご注意ください。
- ・データバックアップ用の内蔵リチウム電池が消耗しましたら(画面に"Battery Low!"と表示されます)、ヤマハ特約店、もしくは弊社電気音響製品サービス拠点に電池交換をお申し出ください。

## 電源スイッチを入れる順番について



コンピューターやMIDIキーボードなどを接続している場合、電源はMIDIの送信側（コンピューター、MIDIキーボード）、本機、再生装置（アンプ内蔵スピーカーやステレオシステム）の順に入れてください。また電源を切る場合は、逆の順番で行ってください。

## 接続について



本機を接続する場合は、再生するスピーカーやアンプの損傷を防ぐために、本機および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

## MIDIケーブルについて



- ・MIDIケーブルはMIDI規格のものをお使いください。
- ・MIDIケーブルは15mが限度とされています。これ以上長いケーブルをご使用になりますと、誤動作などトラブルの原因となりますのでご注意ください。

## MIDIコントローラーについて



- ・本機はMIDI信号を受信して演奏するためのトーンジェネレーターですので、デモプレイを除いて本機だけで演奏することはできません。必ずコンピューターやヤマハSYシリーズ、ヤマハCBXシリーズなどのMIDIコントローラーと接続してご使用ください。
- ・ご使用になるMIDIコントローラーによっては、本機の機能を十分に活かしきれない場合があります。それぞれの機種のマニュアルをよくお読みください。

## 取り扱い、移動について



- ・スイッチや端子に過度の圧力を加えることは避けてください。  
また、ディスプレイは割れたりする危険性がありますので、過度の圧力を加えることは避けてください。
- ・コード類をはずすときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
- ・移動するときは、接続コードをはずした状態で行ってください。

## お手入れについて



- ・パネルをお手入れの際は、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ・ベンジンやシンナーなどの揮発油や溶剤は絶対に使用しないでください。

## 他の電気機器への影響について



本機はデジタル回路を多く使用しているため、近くのテレビやラジオに雑音などが生じることがあります。この場合は十分に距離を離してお使いください。

## 改造について



本機を改造したり、内部を開けたりすることは、事故や故障につながりますので絶対におやめください。改造されたあとの保証はいたしかねます。

## 保証書の手続きについて



お買い求めの際、購入店で必ず保証書をお受け取りください。販売店印やお買い上げ日の記入がない場合、保証期間中でもサービスが有償となることがありますのでご注意ください。

## 保管について



取扱説明書をお読みにになった後は、保証書と共に大切に保管してください。



音のエチケット

これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのロゴマークです。

### ● 音楽を楽しむエチケット ●

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。  
とりなり近所への配慮を十分にいたしましょう。  
静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。  
適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。

ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

## TG300の特長

---

### AWM2音源の高品位なサウンドを手軽に楽しめます。

プロ用のシンセサイザーにも採用されているAWM2音源は、生楽器の音をサンプリングした波形をもとに音作りを行うヤマハ独自の技術です。TG300には、AWM2音源を駆使してプログラムされた456ノーマルボイスとリドラムボイスが内蔵されており、音作りの知識が無い方でもリアルで表現力豊かな音色を自由に選び、その場で演奏することができます。

また、高品位でリアルな波形処理にデジタルフィルターやエフェクトを加え、自由度の高い音作りも可能です。エフェクト機能で音に自然な効果を加えます。

### 新開発DSPのエフェクト機能を使って音に自然な効果を加えます。

TG300は、音に自然な残響感を与えるリバーブ系、心地よい広がりを与えるコーラス系、ギターのディストーションサウンドなどをシミュレーションすることのできるパリエーション系、合計3系統の高級エフェクターを内蔵しています。

この3系統のエフェクターは、それぞれを単独で利用できるほか、1つの音に同時に効果をかけたり、パートごとに自由にかけ分けたりすることもできます。

### 互換性に優れたマルチメディア用のスタンダード音源です。

TG300は、3つのマルチ音源モードで新旧のコンピュータミュージック用音源に対して幅広い互換性を持っています。このため、今まで蓄積してきたソングデータをそのままの形で、しかもより良い音で再生することができます。

もちろん、16パート最大同時発音数32音という余裕の設計です。

ソースを選ばず、1台でビックバンドからフルオーケストラの演奏までこなすTG300は、マルチメディア用のスタンダード音源です。

### MIDIインターフェース機能を内蔵しています。

TG300は、MIDIインターフェース機能を内蔵していますので、Macintoshシリーズ、PC-9801/9821シリーズ、IBM-PC/AT互換機、FM-TOWNSなどのコンピュータと専用のケーブルで直接接続することが可能です。

MacintoshはApple社の登録商標です。

PC-9801、PC-9821は日本電気株式会社の登録商標です。

IBM-PC/ATはインターナショナルビジネスマシンの登録商標です。

FM-TOWNSは富士通株式会社の登録商標です。

### 既存のミュージックデータをほとんどそのまま再生できます。

GM、C/Mの各種音色セットに対応。たとえば、GMやC/M用に作成されたコンピュータのミュージックデータを、ほぼ同じ系統の音色で演奏できます。また、ヤマハMIDIデータファイラーMDF2と組み合わせれば、|コンピュータ・ミュージック・コレクション|CMCシリーズをはじめ、スタンダードMIDIファイル形式のデータ曲集の再生システムとして使用できます。TG300によるアンサンブル演奏を観賞したり、任意パートをミュートしてマイナスイオン演奏するなどさまざまな楽しみ方が考えられます。

また、今までのコンピュータ用音源との互換性の高さを活かし、パソコン通信から受信したスタンダードMIDIファイルデータを再生するための音源として、コンピュータゲームのBGM再生用の音源としてなど、さまざまな用途でお使いいただけます。

GMとはGMシステムレベル1(General MIDI System Level 1)の略名です。(→P.127)

C/MとはGMが承認されるまでのコンピュータミュージック用音源のことで、本書では以降C/Mと記載します。

## 本書の構成

本書は、次の7部で構成されています。






第1章 お使いになる前に	TG300のボタンやつまみの名称と機能、コンピュータとの接続方法、デモソングの演奏方法などを説明します。	まず最初にご覧ください。
第2章 TG300の基礎	セード構成、サウンドモジュールモード、ボイスの選び方や基本的なキーの操作方法など、TG300を操作するうえでの大切な知識を解説します。	TG300をお使いになる前に、必ずご覧ください。
第3章 プレイモード	プレイセードでのキー操作や、ディスプレイの表示などを解説します。パートごとにボイスや音量バランスなどを設定します。	まず曲を演奏したいという方は、ここをご覧ください。
第4章 エディットモード	マルチパートエディット、ボイスエディット、ドラムセットアップエディット、エフェクトエディットなどを使って、TG300のさまざまな機能を使いこなす方法を解説します。	必要に応じてご覧ください。
第5章 ユーティリティモード	TG300のセットアップやMIDIダンブアウト、本体を工場出荷状態に戻すイニシャライズオール、デモソングの演奏方法などについて解説しています。	必要に応じてご覧ください。
付録	エフェクトリストやMIDIデータフォーマット、用語集などを集めてあります。	詳しいデータなどを調べたいときに必要に応じてご覧ください。
索引	50音順索引、アルファベット順索引、そしてエディットモードのパラメーター索引があります。	目指す場所がわからないときにご活用ください。
ボイスリスト (別冊)	ノーマルボイス・ドラムボイス・ウェーブの1一覧表です。	必要に応じてご覧ください。

## 目的のページの見つけ方

「目次」を使う (→P6)	目的の章を探す場合に有効な方法です。右ページ耳部分の章インデックスと関連しています。
「各部の名称と機能」を使う (→P10)	ボタンやつまみの機能が分からなくなったときに有効な方法です。
「索引」を使う (→P173)	目的の用語を探す場合に有効な方法です。五十音順とアルファベット順があります。用語の意味だけを知りたい場合は「用語解説」(→P170)をご活用ください。
「パラメーター索引」を使う (→P177)	目的のパラメーターを探す場合に有効な方法です。TG300のディスプレイに表示するパラメーター名(略式表記)からそのまま検索できます。

## 表記について

本書には文書の中でアイコンという視覚的にポイントや注意事項をわかりやすくするためのイラストを使用しています。

 CHECK	機能を使用するにあたってのポイントを示しています。	 +	「押しながら」という意味を表す記号です。 例えば、[PLAY]+[EDIT]だと、「プレイキーを押しながらエディットキーを押す」という意味になります。
 HINT	機能を使用するにあたっての応用できるヒントを示しています。		
 CAUTION	操作に関する注意事項を示しています。	 /	「または」という意味を表す記号です。 例えば、[PLAY]/[EDIT]だと、「プレイキーまたはエディットキーを押す」という意味になります。

## 第1章 お使いになる前に . . . . . 9

1.各部の名称と機能 . . . . .	10
2.接続について . . . . .	14
コンピューターとの接続 . . . . .	14
MIDI機器との接続 . . . . .	22
オーディオとの接続 . . . . .	24
3.電源について . . . . .	25
4.デモソングの演奏 . . . . .	26

## 第2章 TG300の基礎 . . . . . 27

1.TG300のモード構成 . . . . .	28
2.TG300機能ツリー図 . . . . .	30
3.TG300メモリー構成図 . . . . .	31
4.サウンドモジュールモード . . . . .	32
5.パートモード . . . . .	35
6.最大同時発音数について . . . . .	36
7.プログラムチェンジとバンクセレクト . . . . .	37
8.TG300の基本操作 . . . . .	38
ディスプレイを見やすくする . . . . .	38
初期化する . . . . .	38
カーソルとは . . . . .	38
モードの選択 . . . . .	39
パートの選択 . . . . .	39
サブモードの選択 . . . . .	41
ページの選択 . . . . .	42
データの入力 . . . . .	43
YES/NOの入力 . . . . .	43
トップ画面に戻す . . . . .	43
便利なキー操作 . . . . .	43

## 第3章 プレイモード . . . . . 45

1.パートビューモード . . . . .	46
2.オーバービューモード . . . . .	48
3.MIDIチャンネルメッセージモニター . . . . .	50

	ページ
<b>第4章エディットモード</b>	53
1. マルチパートエディット	54
ショートメニュー	56
ショートメニュー一覧表	56
ショートメニューの各パラメーター	58
フルメニュー	63
フルメニュー一覧表	63
フルメニューの追加パラメーター	66
2. ボイスエディット	70
ボイスコモンエディット	70
ボイスコモンパラメーター一覧表	70
ボイスコモンパラメーター	71
ボイスエレメントエディット	72
エレメントパラメーター一覧表	72
エレメントパラメーター	74
3. ボイスコピー	81
4. ドラムセットアップエディット	82
ドラムセットアップパラメーター一覧表	82
ドラムセットアップパラメーター	84
エディットするインストの選択	84
インストごとのパラメーター	84
5. エフェクトエディット	86
エフェクトについて	86
エフェクトコモンエディット	90
エフェクトコモンパラメーター一覧表	90
エフェクトコモンパラメーター	92
エフェクトパラメーターエディット	92
PrRevパラメーター	92
Revパラメーター	92
Choパラメーター	92
PrVarパラメーター	92
Varパラメーター	92
6. エフェクトコピー	93
7. その他の機能	94
MIDIスライダーモード	94
エクスクルーシブショー	96
メッセージウインドウ	98
ピットマップウインドウ	100
8. エディットの考え方	102
ボイス	102
エレメント	102
ボイスエディットの手順	104
エフェクトメモリー	104
エフェクトエディットの手順	105



## 第5章ユーティリティモード . . . . . 107

- 1. システムセットアップ . . . . . 108
- 2. サウンドモジュールモード (マルチ/シングル) . . . . . 112
- 3. ダンプアウト . . . . . 114
- 4. イニシャライズオール . . . . . 118
- 5. デモプレイ . . . . . 120

## 付録 . . . . . 123

- 仕様 . . . . . 124
- ケーブル配線図 . . . . . 126
- GMシステムレベル1・C/Mについて . . . . . 127
- エフェクトプログラムリスト . . . . . 128
- エフェクトパラメーターリスト . . . . . 129
- エフェクトデータアサインテーブル . . . . . 133
- MIDIデータフォーマット . . . . . 138
- MIDIインプリメンテーションチャート . . . . . 168
- 用語解説 . . . . . 170

## 索引 . . . . . 173

- 五十音順索引 . . . . . 173
- アルファベット順索引 . . . . . 175
- 表示パラメーター索引 . . . . . 177

## 故障かな?と思ったら . . . . . 180

## エラーメッセージリスト . . . . . 181

## ユーザーサポートサービスのご案内 . . . . . 182

## サービスについて . . . . . 183

## ヤマハサービスネットワーク . . . . . 184

# 第1章 お使いになる前に

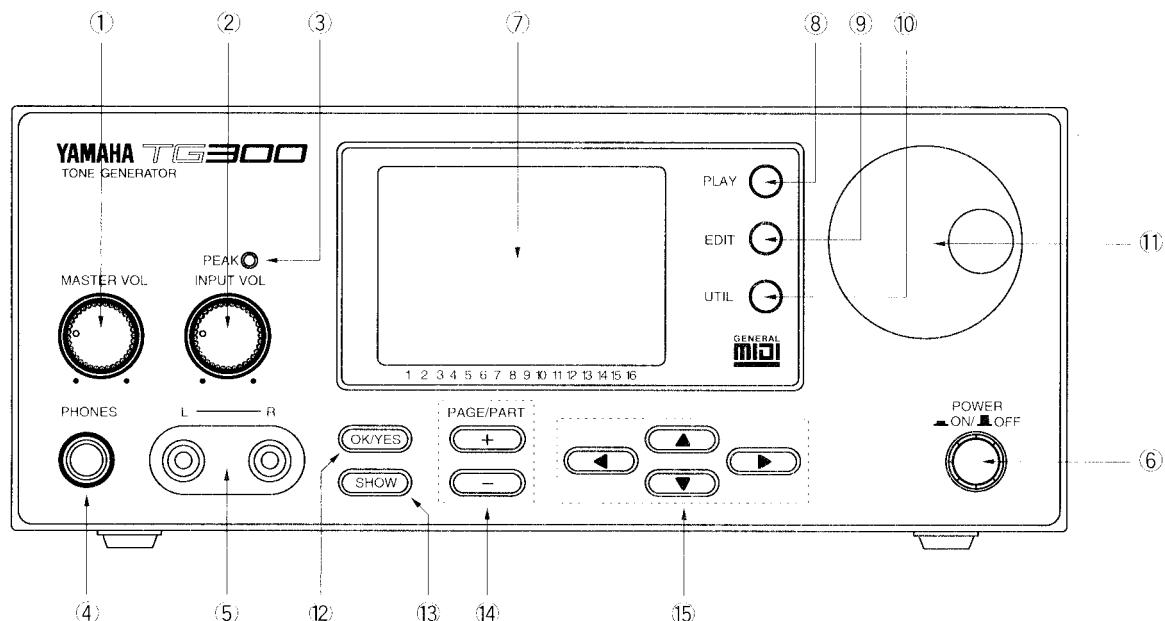
この章では、TG300の各部の名称やその機能、TG300とコンピューター・MIDI機器・オーディオとの接続の方法などを説明します。

1. 各部の名称と機能	10
フロントパネル	10
リアパネル	12
2. 接続について	14
コンピューターとの接続	14
PC-9801/9821 シリーズ	14
Macintosh シリーズ	16
IBM-PC/AT シリーズ	18
FM-TOWNS シリーズ	20
MIDI機器との接続	22
MIDI キーボードとの接続	22
シーケンサーとの接続	22
MIDI2 との接続	23
オーディオとの接続	24
LINE OUT 端子	24
AUDIO IN 端子	24
ヘッドフォン端子	24
3. 電源について	25
4. デモソングの演奏	26

# 1.各部の名称と機能

## 1.各部の名称と機能

### フロントパネル



#### ① MASTER VOL (マスターボリューム)

TG300全体の音量を調節します。本体のサウンドと、AUDIO IN端子から入力されたサウンドの両方がコントロールできます。時計方向に回しきったときに音量が最大となり、反対方向で最小となります。

#### ② INPUT VOL (インプットボリューム)

AUDIO IN端子から入力された信号量を調節します。時計方向に回せば入力信号が大きくなり、反対方向で小さくなります。オーディオインに接続したソースが最大音量のときに、次に説明するピークインディケーターが点滅するように調節するといいいでしょう。

#### ③ PEAK (ピークインディケーター)

AUDIO IN端子に入力された信号のピークレベルを表すインディケーターです。信号がピークレベル（信号が歪み始めるレベル）に達したときに点灯します（ピークレベルの検出は、AUDIO IN端子のL・R両チャンネルの信号に対して行います）。

#### ④ PHONES (ヘッドフォン) 端子

ステレオ標準プラグのヘッドフォンを接続する端子です。ヘッドフォンの音量は、マスターボリュームで調節します。

#### ⑤ AUDIO IN (オーディオイン) 端子

コンピューターやCDプレーヤーなどの出力を接続し、TG300本体のサウンドとミックスするための端子です。接続にはRCAピンプラグを使います。

#### ⑥ POWER (パワースイッチ)

電源のオン／オフを切り替えるスイッチです。押し込んだときに電源がオンになります。

## (7) ディスプレイ

TG300を操作するときに、必要な情報を表示します。128×64ドットのバックライト付き液晶ディスプレイ (LCD) です。

## (8) PLAY

(プレイ) キー

TG300をプレイモード (受信したMIDI情報をグラフィックで表示し演奏するモード) に切り替えます。このキーを押すたびに、パートビューとオーバービューに切り替わります。

## (9) EDIT

(エディット) キー

TG300をエディットモード (各種の設定やエディットを行うためのモード) に切り替えます。エディットモードには、マルチパートエディット、ボイスエディットなど、7種類のサブモードが入っていて、カーソルキーで切り替えることができます。

## (10) UTIL

(ユーティリティ) キー

TG300をユーティリティモードに切り替えます。ユーティリティモードでは、システムセットアップ、MIDIダンプアウト、イニシャライズ、デモソングの演奏などの操作を行います。

## (11) ダイアル

ディスプレイの現在カーソルのあるパラメーターの数値を増減するのに使用します。ダイヤルを右に回すと数値は増え、左に回すと減ります。また、素早く回したり、[OK/YES]キーとあわせて使用すると、数値を大きく増減できます。

## (12) OK/YES

(オーケー/イエス) キー

ディスプレイの質問にYESで答えるためのキーです。TG300では、NOにあたるキーは用意されていませんが、[◀]キーや、[PLAY]、[EDIT]、[UTIL]などのモードキーでディスプレイの質問をキャンセルすることができます。

## (13) SHOW

(ショー) キー

MIDIチャンネルメッセージモニターや、エクスクルーシブショーに入るためのキーです。

プレイモードでこのキーを押すと、MIDIチャンネルメッセージモニターに入り、MIDIイン端子から入ってきたMIDIチャンネルメッセージを、パートごとにディスプレイでモニターすることができます。

エディットモードでこのキーを押すと、エクスクルーシブショーに入り、現在選ばれているパラメーターのパラメーターチェンジデータが、ディスプレイに表示されます。

## (14) PAGE/PART

(ページ/パート) キー

プレイモード (オーバービュー) や、エディットメニュー、マルチパートエディットで、パートナンバーを切り替えるためのキーです。[+]キーでパートナンバーが1つ増え、[-]キーでパートナンバーが1つ減ります。また、プレイモード (パートビュー)、ボイスエレメントエディット、エフェクトパラメーターエディットでページを切り替えることができます。

## (15) カーソルキー

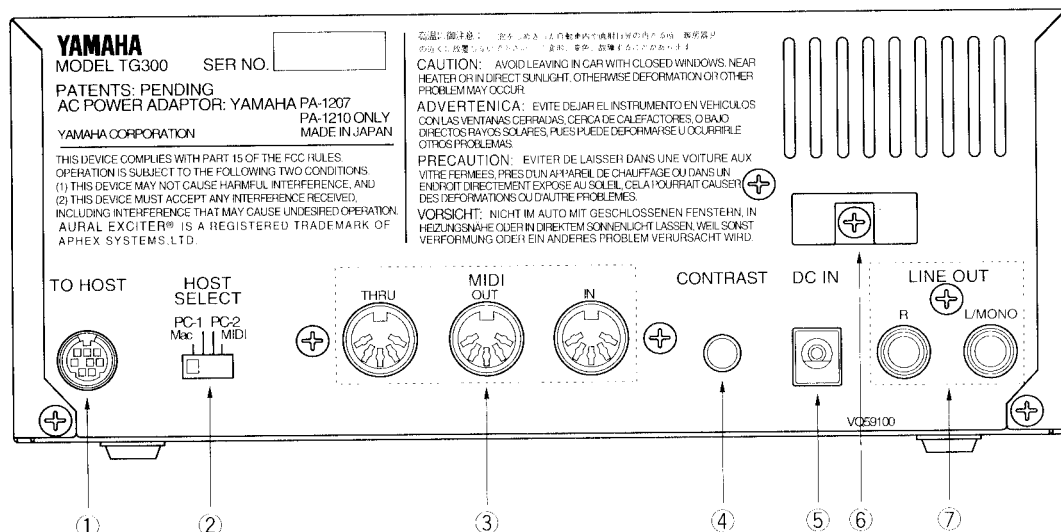
ディスプレイのカーソルを移動したり、画面表示部分を切り替えるためのキーです。

プレイモードでは、操作したいパートやコントローラーを選択することができます。

エディットモード、ユーティリティモードでは、[◀/▶]キーでエディットメニューとサブモードが切り替わり、[▲/▼]でパラメーターやコマンド、変更したいデータを選択できます。

# 1. 各部の名称と機能

## リアパネル



### ① TO HOST (トゥホスト) 端子

コンピューターからMIDI端子を介さずにTG300をコントロールするときに、ホストコンピューターと直接接続するための端子です。

### ② HOST SELECT (ホストセレクト) スイッチ

ホストコンピューターの機種やMIDI端子を選択するスイッチです。

### ③ MIDI (ミディ) 端子

MIDIケーブルで外部のMIDI機器と接続する端子です。

#### ・ MIDI IN (MIDIイン)

MIDIコントローラーやコンピューターのMIDIインターフェースからの情報を受信します。

#### ・ MIDI OUT (MIDIアウト)

TG300内部の設定などの情報を出力します。

#### ・ MIDI THRU (MIDIスルー)

MIDIイン端子から受信した信号をそのまま出力します。TG300本体の情報は一切付加されません。

### ④ CONTRAST (コントラスト) 調節つまみ

ディスプレイのコントラストを調節します。時計方向に回せばコントラストが強くなります。

⑤DC IN  
(ディーシーイン) 端子

付属のACアダプターPA-1207を接続する端子です。  
TG300では、ACアダプターとして別売のPA-1210を使用することもできます。

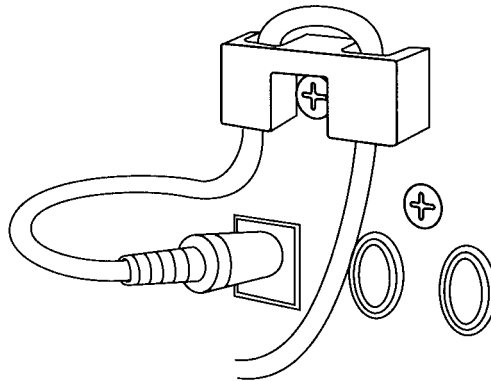


ACアダプターを接続する場合は、必ず本体の電源がオフになっていることを確認し、ACアダプターをDC IN端子につないでから、最後にACアダプターを電源に接続してください。

ACアダプターは、必ず付属のPA-1207か、PA-1210をお使いください。電圧や極性の違うACアダプターを使用しますと、故障の原因となります。また、長時間ご使用にならないときは、ACアダプターは必ずコンセントからはずしてください。

⑥電源コードフック

ここに、ACアダプターのコードを下図のようにセットしてください。  
誤ってコードを引っ掛けるとき、抜けにくくなります。



⑦LINE OUT  
(ラインアウト) 端子

アンプ内蔵スピーカーやステレオシステムなどの再生装置に接続する端子です。ステレオで再生するときには両方の端子に、モノラルで再生するときにはL/MONO端子に接続します。

## 2. 接続について

## 2. 接続について

### コンピューターとの接続

TG300をコンピューターからコントロールする場合、次の2種類の方法があります。

1. コンピューターのシリアルポート（RS-232C端子やRS-422端子）をTG300のTO HOST端子に接続する。
2. MIDIインターフェースを通じてTG300のMIDI端子に接続する。

ここでは、代表的なコンピューターを例にあげて説明します。

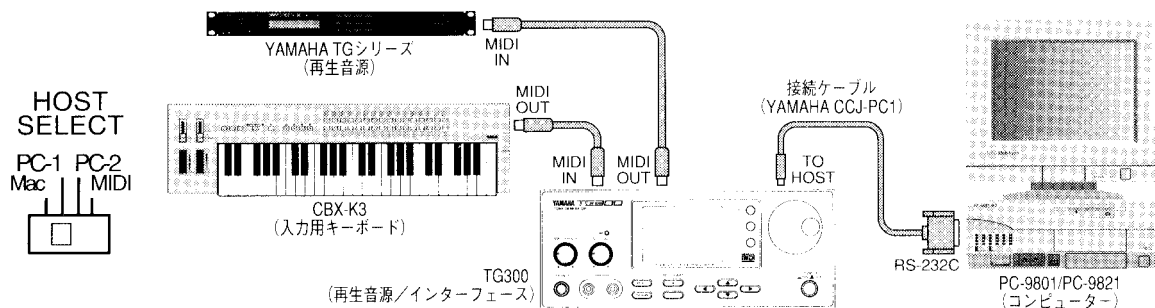


1.の接続方法を使えば、TG300をMIDIインターフェースとして使用できるため、専用のMIDIインターフェースは不要です。ただし、コンピューターの機種によっては、この接続方法が使えません。

### PC-9801、PC-9821 シリーズ

#### 1. RS-232C

NEC社のPC-9801、PC-9821シリーズにTG300を直接接続する場合は、PC-9801、PC-9821シリーズのRS-232C端子とTG300のTO HOST端子を、別売のケーブル「ヤマハCCJ-PC1」（市販品の場合は、D-SUB25P→MINI DIN 8Pクロスケーブル）を使って接続します。このとき、リアパネルのHOST SELECTスイッチをPC-1(31,250bps)にセットします。これでリアパネルのMIDI端子がMIDIインターフェースの機能を持つようになります。



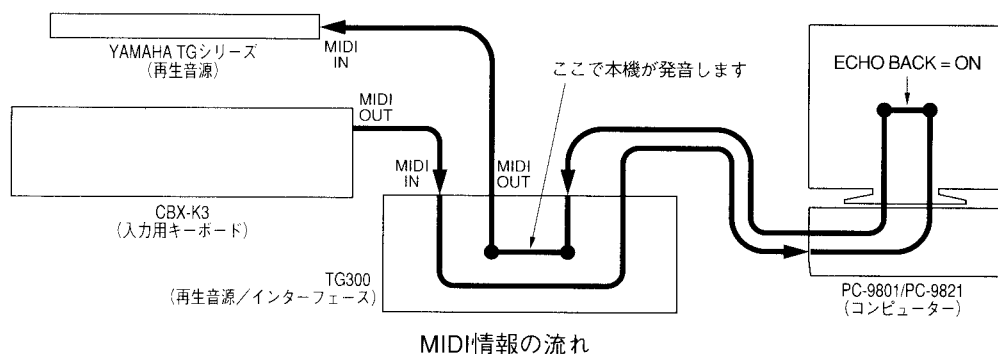
PC-9801、PC9821シリーズとの接続（TO HOST）



使用するシーケンスソフトウェアの種類によって、HOST SELECTスイッチをPC-2(38,400bps)にセットしないと動作しないものがあります。お使いになるソフトの取扱説明書をよく読んで設定してください。



ケーブルは上図の指定のものを別途ご購入ください  
(ケーブル配線図→..P126)



コンピューターのRS-232C端子と本機のTOHOST端子とを直接接続するには、使用するシーケンスソフトウェアがRS-232Cを使用できるものでなければなりません。



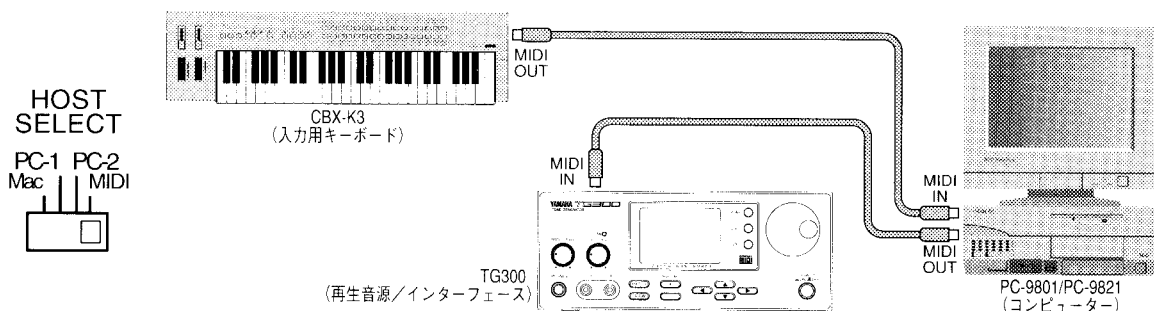
シーケンスソフト側で、RS-232Cを使用できるように設定し、Echo Back (HOST THRU)の設定をONにしてご使用ください。  
(詳しくはそれぞれのソフトウェアの取扱説明書をご参照ください)



ヤマハ「HELLO!MUSIC!」CBX-101のHM98は、本機では起動しません。HM98をご使用になるためには、CBX-101に同梱されたCBX-T3が必要です。  
本機をHM98で使用される場合は、CBX-T3からMIDI接続してお使いください。

## 2.MIDIインターフェース

NEC社のPC-9801、PC-9821シリーズの拡張スロットを使用するMIDIインターフェースを経由して接続する場合は、MIDIインターフェースのMIDI OUTをTG300のMIDI INに接続します。このときTG300のリアパネルにあるHOST SELECTスイッチをMIDIにセットします。



PC-9801、PC-9821シリーズとの接続 (MIDI)

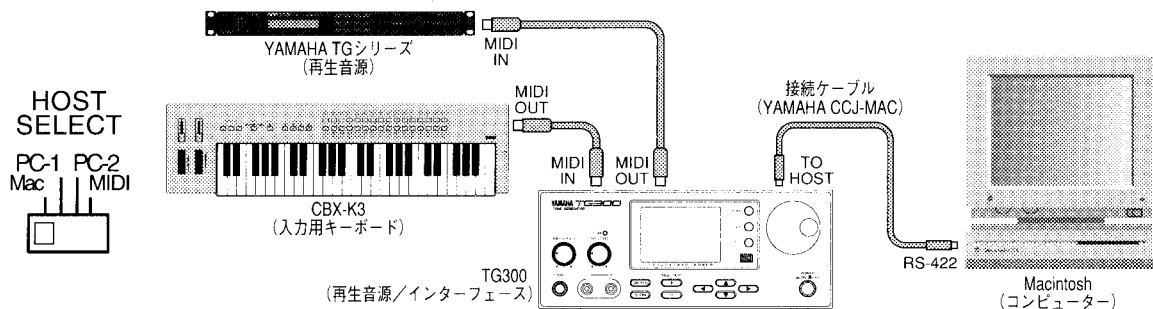


## 2. 接続について

### Macintosh シリーズ

#### 1.RS-422

Macintosh シリーズのコンピュータにTG300を直接接続する場合は、別売の「ヤマハCCJ-MAC」(市販品の場合はシステムペリフェラルケーブル、8ピン)を使って、MacintoshシリーズのRS-422端子(モデムまたはプリンター端子)とTG300のTO HOST端子を接続します。このとき、リアパネルのHOST SELECTスイッチをMacにセットします。これでリアパネルのMIDI端子がMIDI インターフェースの機能を持つようになります。

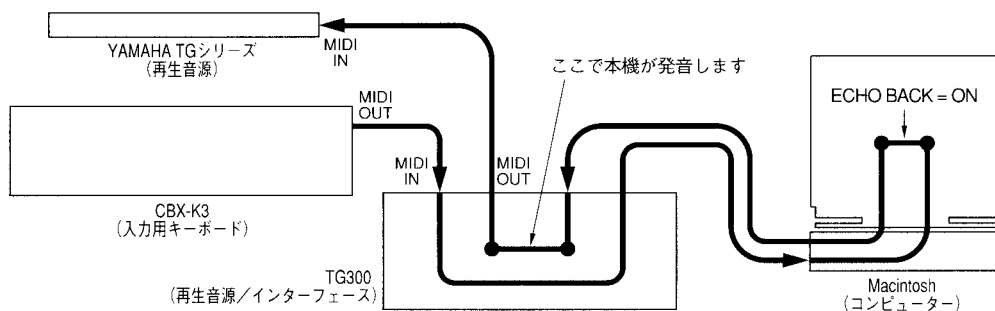


Macintoshシリーズとの接続 (TO HOST)



CAUTION

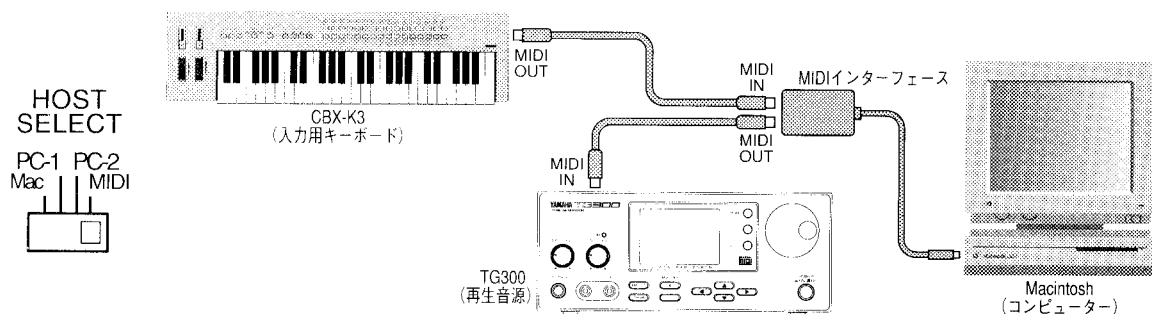
Macintoshのアプリケーションソフトウェア側では、MIDI インターフェースのクロックを必ず1MHzに設定してください。ケーブルは指定の配線のもの別途ご購入ください。(ケーブル配線図→..P126)



MIDI情報の流れ

## 2. MIDI インターフェース

Macintosh シリーズのコンピュータに MIDI インターフェースを経由して接続する場合は、MIDI インターフェースの MIDI OUT を TG300 の MIDI IN に接続します。このとき、TG300 のリアパネルにある HOST SELECT スイッチを MIDI にセットします。



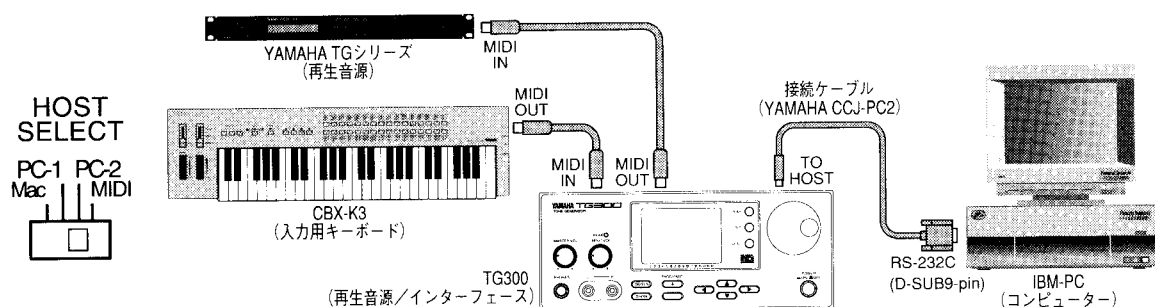
Macintosh シリーズとの接続 (MIDI)

## 2. 接続について

### IBM-PC/AT シリーズ（互換機含む）

#### 1.RS-232C

IBM-PCシリーズのコンピューターにTG300を直接接続する場合は、別売のケーブル「ヤマハCCJ-PC2」（市販品の場合は、RS-232C→RS-422変換ケーブル）を使って、IBM-PCシリーズのRS-232C端子とTG300のTO HOST端子を接続します。このとき、リアパネルのHOST SELECTスイッチをPC-2にセットします。これでリアパネルのMIDI端子がMIDIインターフェースの機能を持つようになります。

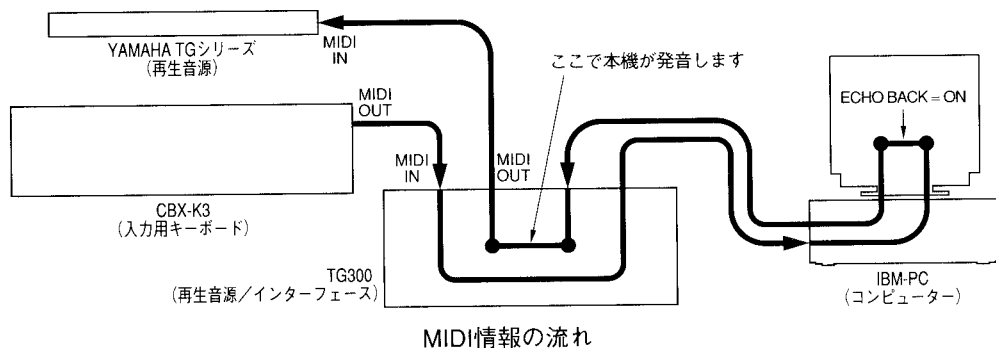


IBM-PCシリーズとの接続（TO HOST）



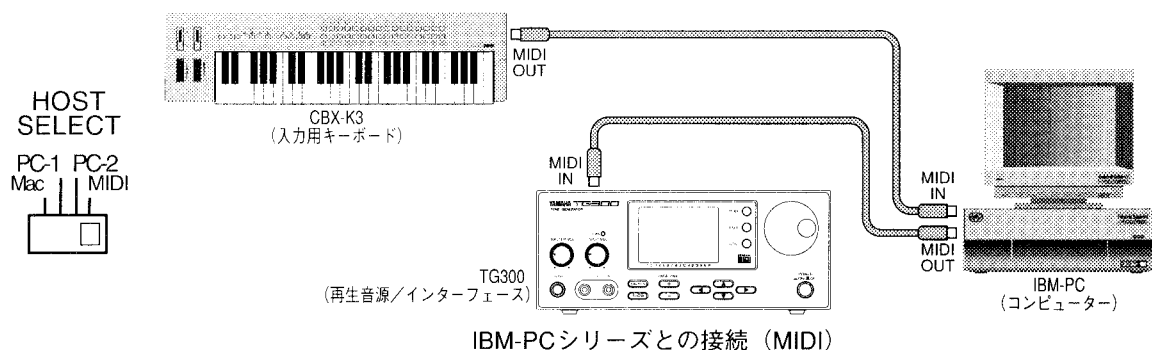
CAUTION

ケーブルは上図の指定のものを別途ご購入ください。  
なお、PC側がD-SUB25-pinの場合は、「ヤマハCCJ-PC1」を使用してください。  
(ケーブル配線図→..P126)



## 2. MIDI インターフェース

IBM-PC シリーズの拡張スロットを使用する MIDI インターフェースを経由して接続する場合は、MIDI インターフェースの MIDI OUT を TG300 の MIDI IN に接続します。このとき、TG300 のリアパネルにある HOST SELECT スイッチを MIDI にセットします。

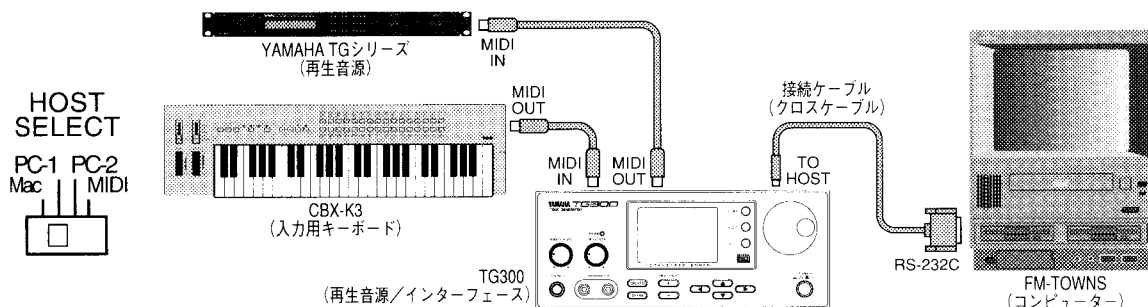


## 2. 接続について

### FM-TOWNSシリーズ

#### 1.RS-232C

FM-TOWNSシリーズのコンピュータにTG300を直接接続する場合は、下記のRS-232C→RS-422変換ケーブルを使って、FM-TOWNSシリーズのRS-232C端子とTG300のTO HOST端子を接続します。このとき、リアパネルのHOST SELECTスイッチをPC-1にセットします。これでリアパネルのMIDI端子がMIDIインターフェースの機能を持つようになります。

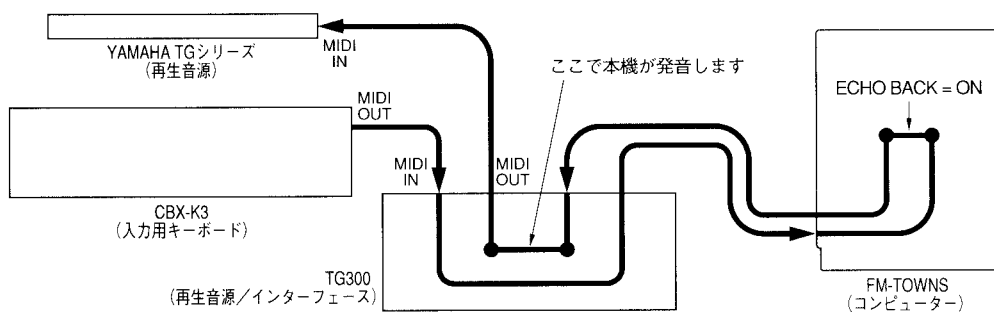


FM-TOWNSシリーズとの接続 (TO HOST)



CAUTION

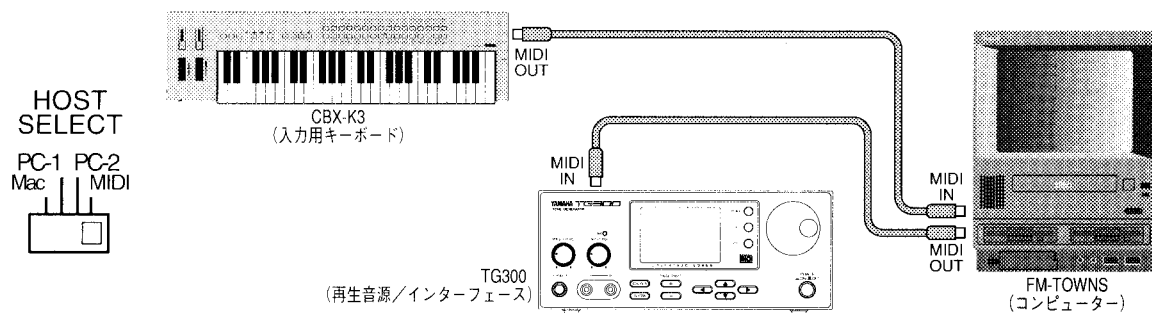
FM-TOWNSのRS-232C端子とTG300のTO HOST端子を接続するには、D-SUB25P→MINI DIN8Pの変換ケーブル (クロスケーブル) の、D-SUBの15ピンとMINI-DINの6ピンを接続したもの (1993年10月段階では市販されていません) をご用意ください。(ケーブル配線図→..P126)



MIDI情報の流れ

## 2.MIDIインターフェース

FM-TOWNSシリーズの拡張スロットを使用するMIDIインターフェースを経由して接続する場合は、MIDIインターフェースのMIDI OUTをTG300のMIDI INに接続します。このとき、TG300のリアパネルにあるHOST SELECTスイッチをMIDIにセットします。



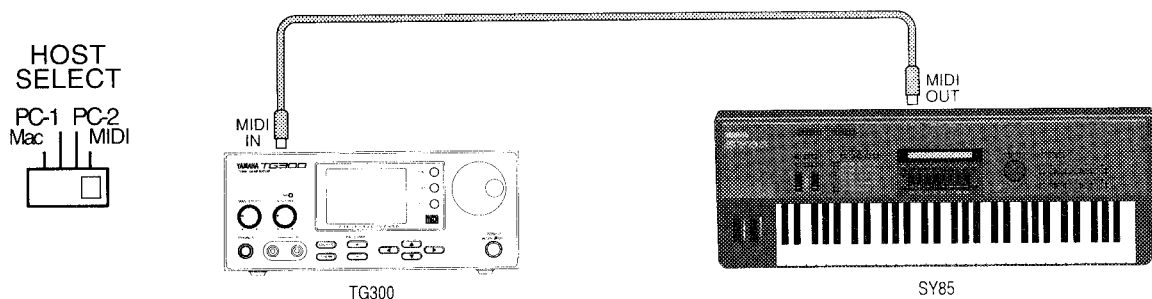
FM-TOWNSシリーズとの接続 (MIDI)

## 2. 接続について

### MIDI機器との接続

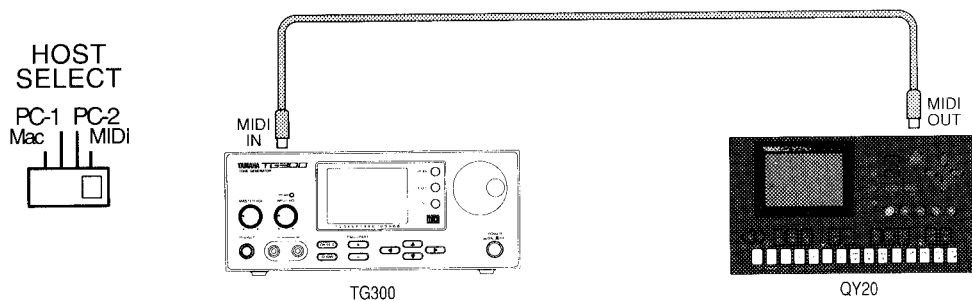
#### MIDI キーボードとの接続

TG300をヤマハSYシリーズやクラビノーバの拡張MIDI音源として使用する場合は、MIDIケーブルを使ってMIDIキーボードのMIDI OUTとTG300のMIDI INを接続します。このとき、TG300のリアパネルにあるHOST SELECTスイッチをMIDIにセットします。



#### シーケンサーとの接続

TG300をシーケンサーの音源として使用する場合は、シーケンサーのMIDI OUTとTG300のMIDI INを接続します。このとき、TG300のリアパネルにあるHOST SELECTスイッチをMIDIにセットします。

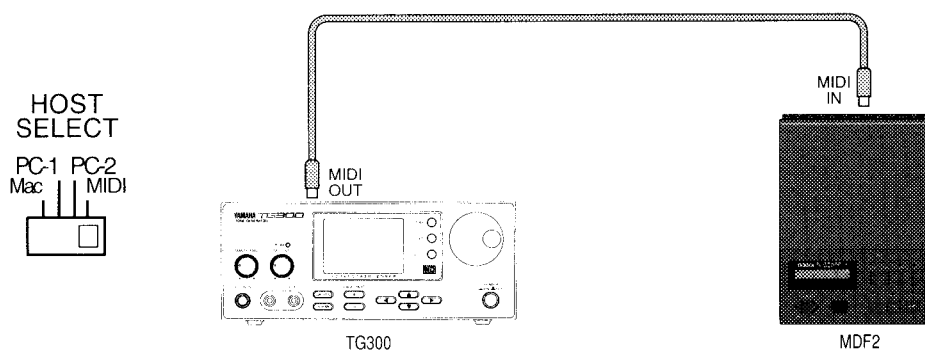


## MDF2 との接続

ヤマハMIDIデータファイラーMDF2を使えば、TG300内部の設定内容をフロッピーディスクに保存したり、MDF2の再生機能を使って、「コンピューター・ミュージック・コレクション」CMCシリーズをはじめ、スタンダードMIDIファイル形式のデータ曲集をTG300で再生することもできます。

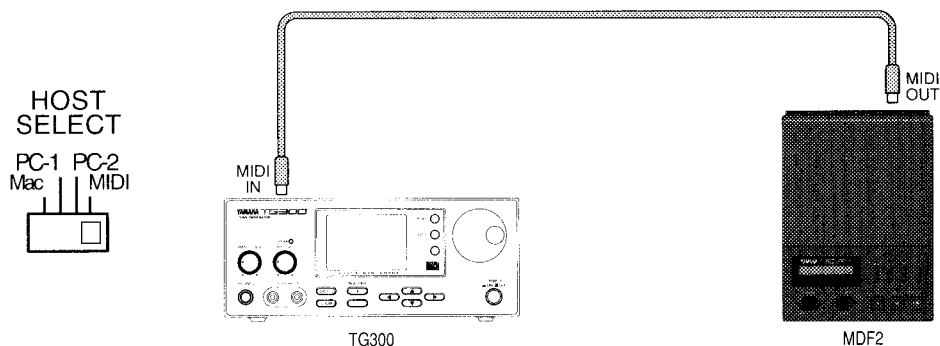
## 1. TG300の設定内容を保存する場合

TG300の設定内容をヤマハMIDIデータファイラーMDF2に保存する場合は、TG300のMIDI OUTとMDF2のMIDI INを接続します。このとき、TG300のリアパネルにあるHOST SELECTスイッチをMIDIにセットします。



## 2. MDF2を使ってTG300を演奏する場合

MDF2の再生機能を使って「コンピューター・ミュージック・コレクション」をTG300で再生する場合やMDF2に保存したデータをTG300に戻す場合は、TG300のMIDI INとMDF2のMIDI OUTを接続します。このとき、TG300のリアパネルにあるHOST SELECTスイッチをMIDIにセットします。



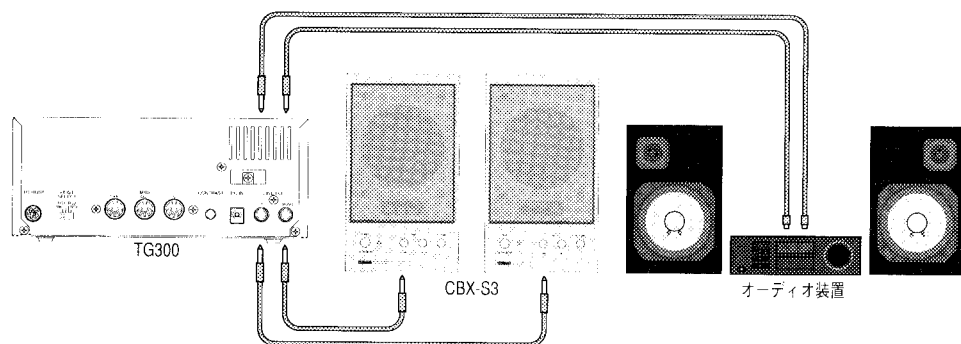


## 2. 接続について

### オーディオとの接続

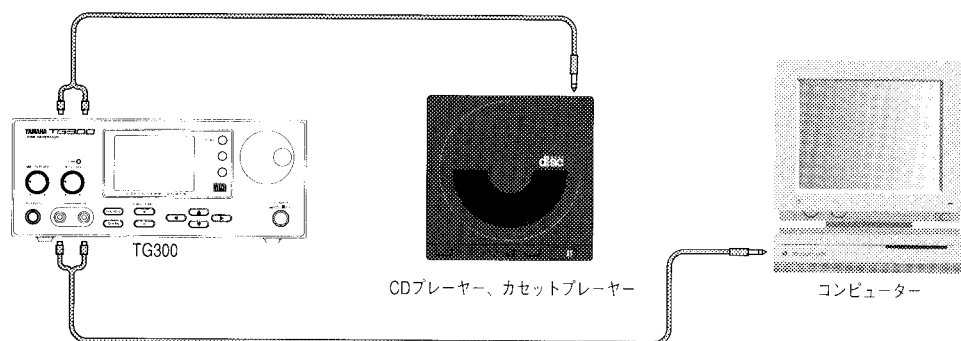
#### LINE OUT 端子

リアパネルのLINE OUT端子を再生装置に接続します。再生装置にはアンプ内蔵スピーカー（ヤマハCBX-S3など）やオーディオ装置などハイファイなものをお薦めします。オーディオ装置に接続する場合は、標準プラグ→RCAピンプラグの変換アダプターが必要です。



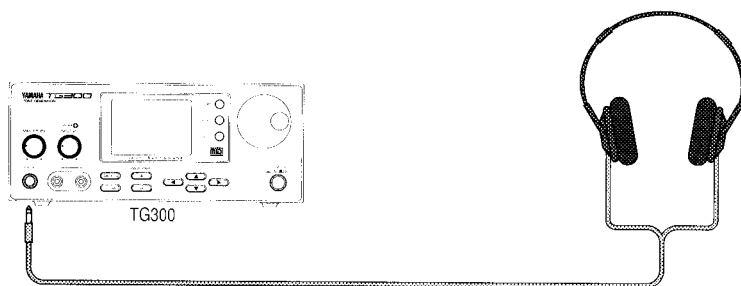
#### AUDIO IN 端子

フロントパネルのAUDIO IN端子にコンピューターの音声出力やCDプレーヤー、カセットプレーヤーの出力を接続すれば、TG300本体の信号とミックスすることができます。とくにTG300をもう1台の音源と同時に演奏させたい場合に便利です。



#### ヘッドフォン端子

ヘッドフォンからTG300のサウンドをモニターしたい場合は、フロントパネルのPHONES端子にヘッドフォンを接続します。ヘッドフォンの音量調節にはマスターボリュームを使用します。ヘッドフォンを使用した場合でも、LINE OUT端子からはサウンドが出力されます。



## 3. 電源について

## 電源を入れる

1. TG300と周辺機器が正しく接続されていることを確認してください。また、再生装置のボリュームは下がった状態にしてください。
2. コンピューターやMIDIキーボードに続いてTG300のパワースイッチをオンにしてください。

TG300のディスプレイに次のような表示がでます。



3. 再生装置の電源を入れ、TG300のマスターボリュームと、再生装置のボリュームを適切な位置に調節してください。



音量を調節するには、デモソングを演奏させてみるのが便利です。(→..P26)



TG300を設置する角度によっては、ディスプレイの表示が暗くて見えにくいことがあります。リアパネルのCONTRAST調節つまみで適切な位置に調節してください。

## 電源を切る

1. 本体のパワースイッチを切る前に、まず再生装置のボリュームを下げてください。
2. 本体に続いてMIDI機器の電源を切ってください。

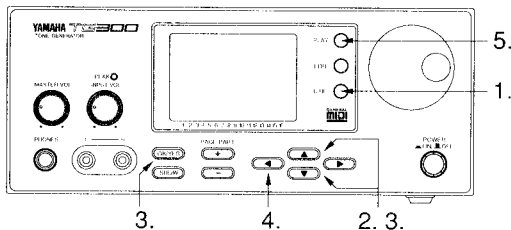


TG300は、電源を切る直前の設定を記憶しています。

## 4. デモソングの演奏

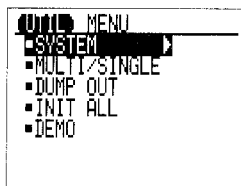
### 4. デモソングの演奏

TG300には、AWM2音源を活かしたデモソングが内蔵されています。このデモソングを演奏してみましょう。

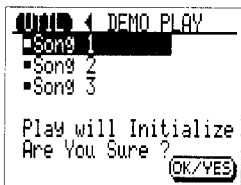


CAUTION

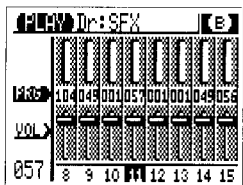
デモソングを演奏するとTG300のセットアップデータがすべて工場出荷状態に初期化されてしまいます。  
大切なデータはMIDIデータファイラーMDF2などに保存してから、デモソングを演奏させてください。(→..P114)



1. パワースイッチのオン状態で、[UTIL]キーを押してください。  
ユーティリティメニューが表示されます。



2. [▲/▼]キーで[DEMO]にカーソルを移動し[▶]キーを押してください。  
ディスプレイが左の表示になります。



3. [▲/▼]キーで演奏したい曲にカーソルを移動し、[OK/YES]キーを押してください。  
ディスプレイが左のように変わり、デモソングの演奏が始まります。  
どの曲からはじめても、表示された3曲を何度も繰り返し演奏します。

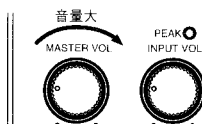
4. [◀]キーを押すと、デモ演奏が終了します。(デモ演奏はいずれのキーを押しても終了できますが、「キャンセルの操作は[◀]キーで行う」と覚えてください。)

5. [PLAY]キーを押してください。  
これで、元の画面に戻ります。

### 音量をかえる



デモソングを演奏しながら、マスターボリュームで最適な音量に調節してください。  
つまみを時計の針の方向に回すと音量は大きくなり、  
反対に回すと小さくなります。



## 第2章 TG300の基礎

# 2

この章では、TG300の仕組みやモード、基本的な操作方法などについて説明します。

1.TG300のモード構成	28
2.TG300機能ツリー図	30
3.TG300メモリー構成図	31
4.サウンドモジュールモード	32
5.パートモード	35
6.最大同時発音数について	36
7.プログラムチェンジとバンクセレクトについて	37
8.TG300の基本的な操作	38
ディスプレイを見やすくする	38
初期化する	38
カーソルとは	38
モードの選択	39
パートの選択	39
サブモードの選択	41
ページの選択	42
データの入力	43
YES/NOの入力	43
トップ画面に戻す	43
便利なキー操作	43

# 1.TG300のモード構成

## 1.TG300のモード構成

TG300をはじめとするデジタル楽器では、多くの機能や操作を同じ種類ごとにまとめ、モードやサブモードと呼んでいます。

本機でも、操作を簡単にわかりやすくするため、全体の機能を3つのモードと16種類のサブモードに分けています。

本機を操作する際には、目的とする機能の含まれるモード、サブモードを搜してください。

TG300は3つのモードと各サブモードで構成されています。

### 3つのモード

#### プレイモード (→..P45)

- ・ TG300を演奏するときのモードで、4種類のサブモードを持っています。
- ・ MIDI端子から入ってきたMIDI情報をディスプレイにグラフィックで表示します。
- ・ ミュートのON/OFFをはじめ、音色やボリュームを設定することができます。
- ・ パートビュー、オーバービューの2つの画面モードが、[PLAY]キーを押すごとに切り替わります。電源を入れたときは、必ずパートビューモードになります。

#### パートビューモード (→..P46)

- ・ パートごとに、出力レベル、音色番号、ボリュームなど9種類のパラメーターを表示します。
- ・ このうち、出力レベルを除く8種類のパラメーターを、パートごとに設定できます。
- ・ ミュートのON/OFFやソロを設定できます。

#### オーバービューモード (→..P48)

- ・ 16パートまとめて確認でき、出力レベル、ボリューム、エクスプレッションの3種類のパラメーターを表示します。
- ・ ミュートのON/OFFやソロの設定ができます。

#### MIDIチャンネルメッセージモニター (→..P50)

- ・ プレイモードで[SHOW]キーを押すとこのモードに入ります。
- ・ 現在選んでいるパートが受信しているMIDIチャンネルメッセージの値を表示します。

#### MIDIスライダーモード (→..P94)

- ・ ダイアルの動きに合わせて、複数のMIDIチャンネルのコントロール情報を送信するモードです。
- ・ この機能を使うと、曲のフェードインアウトを録音したりするコンピュミックスができます。

#### エディットモード (→..P53)

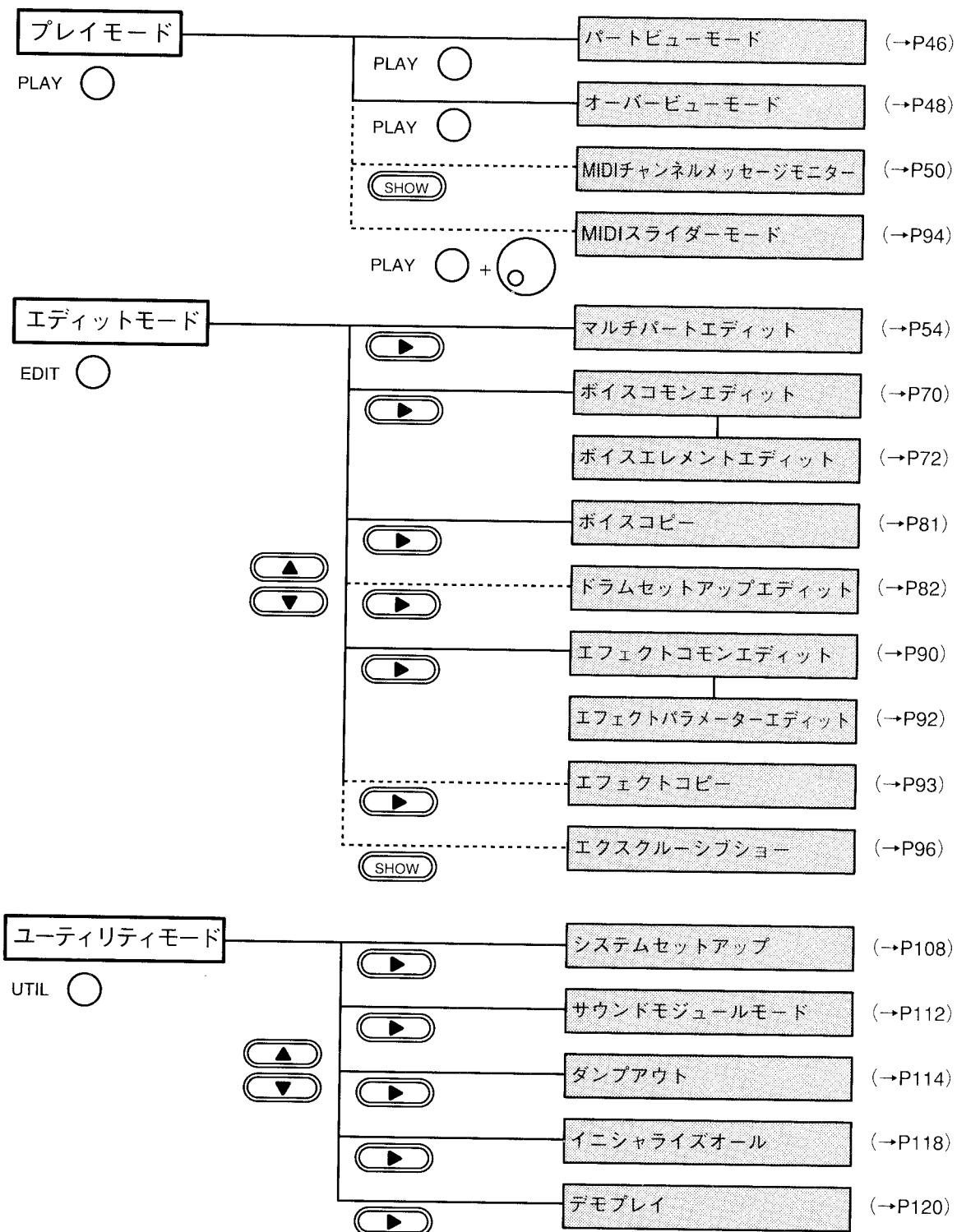
- ・ TG300を使用する上でのさまざまな設定をするモードです。4種類のサブモードと2種類のコピー、そしてショー機能を持っています。
- ・ [EDIT]キーを押すとエディットメニューが表示され、サブモードが一覧表示されます。

#### マルチパートエディット (→..P54)

- ・ パートごとの音色や、音量、パンポット(定位)、エフェクトの深さなどの設定を変更するモードです。

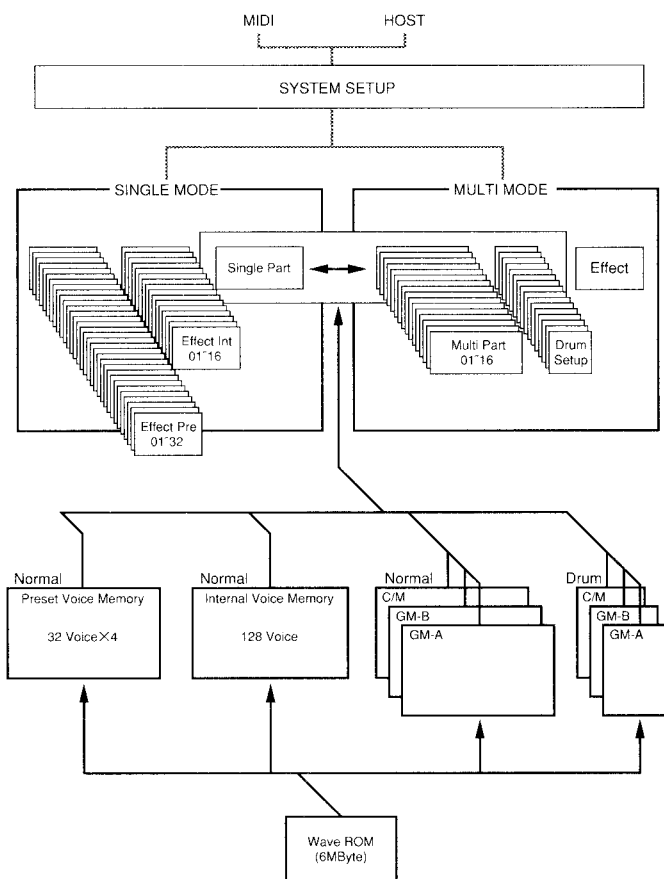
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パート数は、シングルモードでは1、マルチモードでは16です。</li> <li>・「ショートメニュー」以外に、より細かく設定ができる「フルメニュー」があります。</li> </ul>
ボイスコモンエディット (→..P70)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々のボイスのレベルやネーム、シングルボイスで使用するエフェクトナンバーを設定するモードです。</li> <li>・ボイスコモンエディットから、ボイスエレメント1エディット、ボイスエレメント2エディットの2つのサブモードへ入れます。</li> </ul>
ボイスコピー (→..P81)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在選ばれているボイスを、インターナルボイスメモリーにコピーする機能です。</li> </ul>
ドラムセットアップエディット (→..P82)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラムボイスのピッチやパンなど、鍵盤に割り当てられた音色ごとに設定するモードです。</li> </ul>
エフェクトコモンエディット (→..P90)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TG300は、残響感などの効果を作るエフェクトを合計5基3系統内蔵しています。エフェクトエディットは、それらのエフェクトの設定を変更するモードです。</li> <li>・エフェクトコモンエディットから、各エフェクトの設定をする5つのサブモードへ入れます。</li> </ul>
エフェクトコピー (→..P93)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シングルモードで使うエフェクトメモリーの設定を、現在選ばれているエフェクトメモリーから、インターナルメモリーI01～I16にコピーする機能です。</li> </ul>
エクスクルーシブショー (→..P96)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[SHOW]キーを押すと、現在エディット中のパラメーターを外部MIDI機器からコントロールするための、MIDIエクスクルーシブメッセージのデータを表示します。</li> <li>・この機能を使うと、MIDIデータフォーマットを見たり、チェックサムを計算する手間がなくなります。</li> </ul>
ユーティリティモード (→..P107)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムセットアップの各設定をしたり、MIDIダンプアウト、イニシャライズ、デモソングの演奏などの作業を行うモードです。</li> </ul>
システムセットアップ (→..P108)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスターチューニングやトランスポーズなど、TG300を使用するための基本的な設定をします。</li> </ul>
サウンドモジュールモード (→..P112)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TG300をどのような音源として使用するかを設定します。</li> </ul>
ダンプアウト (→..P114)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TG300の設定をMIDIシステムエクスクルーシブ情報としてMIDI端子より送信します。</li> </ul>
イニシャライズオール (→..P118)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチ、ボイスなどすべての設定を工場出荷状態に戻します。</li> </ul>
デモプレイ (→..P120)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デモソングを演奏します。</li> </ul>

## 2.TG300機能ツリー図



## 3.TG300 メモリー構成図

- ・ SYSTEM SETUP × 1
- ・ MULTI MODE
  - ・ Part 01 ~ 16
  - ・ Drum Setup × 16
  - ・ Effect × 1
  - ・ Normal Voice(Multi Preset Voice Memory) ・ ・ GM-A:195 Voice,GM-B:456 Voice,C/M:192 Voice
  - ・ Normal Voice(Internal Voice Memory) ・ ・ ・ 128 Voice(GM-A,GM-Bで使用可)
  - ・ Normal Voice(Single Preset Voice Memory) ・ ・ 32 Voice(GM-Bで使用可)
  - ・ Drum Voice ・ ・ ・ ・ ・ GM-A:6Set,GM-B:9Set,C/M:1Set
- ・ SINGLE MODE
  - ・ Part 01
  - ・ Effect(Preset):P01 ~ P32
  - ・ Effect(Internal):I01 ~ I16
  - ・ Normal Voice(Preset Voice Memory) ・ ・ ・ 32Voice
  - ・ Normal Voice(Internal Voice Memory) ・ ・ ・ 128 Voice
  - ・ Normal Voice(GM-B Bank) ・ ・ ・ ・ ・ 456 Voice
- ・ Wave Rom ・ ・ 6M Byte(195Wave)





### 4. サウンドモジュールモード

TG300をどのような音源として使用するかを設定するのが、サウンドモジュールモードです。

TG300は、次の4種類のサウンドモジュールモードを持っており、モードを切り替えるだけで、使用できるパート数、ボイスの数や種類、エフェクトメモリーなどがかわります。

4つのモードの特長を把握し、使用目的に応じたモードに設定してください。

サウンドモジュールモードの設定は「サウンドモジュールモード」をご覧ください。(→..P112)

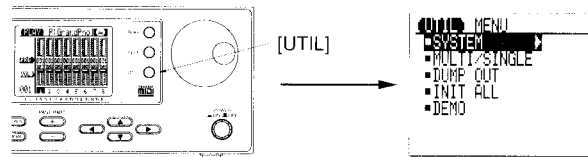
各サウンドモジュールモードで選べるボイス範囲については「マルチパートエディット」をご覧ください。(→..P58.P66)

#### サウンドモジュールモードの選択

##### 操作

1. ユーティリティモードに入ります。

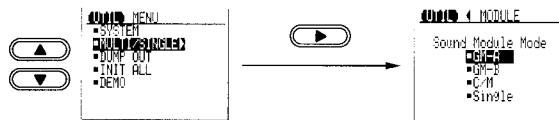
[UTIL]キーを押すと、ディスプレイにユーティリティメニューが表示されます。



ユーティリティメニュー

2. サウンドモジュールモードに入ります。

[▲]/[▼]キーでカーソルを[MULTI/SINGLE]に移動し、[▶]キーを押して、サウンドモジュールモードに入ります。

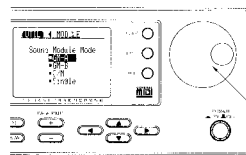


ユーティリティメニュー

サウンドモジュールモード

3. サウンドモジュールモードを選びます。

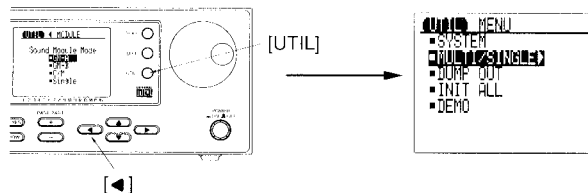
ダイヤルでサウンドモジュールモードを切り替えます。



ダイヤルでサウンドモジュールを選びます。

4. サウンドモジュールモードから、ユーティリティメニューに戻ります。

[◀]キーか[UTIL]キーでユーティリティメニューに戻ります。



サウンドモジュールモードから、直接プレイモードに戻れます。  
プレイモードに直接戻するには、[PLAY]キーを押します。

## GM-A

## 表示【A】

## 解説

- ・ GMシステムレベル1に完全対応したマルチ音源モードです。
- ・ GMシステムレベル1で規定されていない拡張部分においても、ヤマハポータートーンやヤマハクラビノーバのGMモードと互換性があります。(一部機種を除く)

## 使用できるパート数

16

## 使用できるボイス

- ・ ノーマルボイス GM-A用プリセットボイス:128×7バンク  
インターナルボイス:128
- ・ ドラムボイス GM-A用プリセットボイス:6

## 使用できるエフェクト

マルチ用インターナル:1

## GM-B

## 表示【B】

## 解説

- ・ GMシステムレベル1に完全対応したマルチ音源モードです。
- ・ コンピューターミュージックのデータ再生に適しています。

## 使用できるパート数

16

## 使用できるボイス

- ・ ノーマルボイス GM-B用プリセットボイス:128×15バンク  
シングル用プリセットボイス:32  
インターナルボイス:128
- ・ ドラムボイス GM-B用プリセットボイス:9

## 使用できるエフェクト

マルチ用インターナル:1

## C/M

## 表示【C】

## 解説

- ・ C/Mとは、GMシステムレベル1がMIDI規格協議会によって承認される前まで一般的だったコンピューターミュージック用マルチ音源のモードで、C/M用に作成されたコンピューターのミュージックデータをほぼ同じ系統の音色で演奏できます。
- ・ 初期状態では、パート1はOFFになっています。

## 使用できるパート数

16

## 使用できるボイス

- ・ ノーマルボイス C/M用プリセットボイス:128(パート1～9)  
64(パート11～16)
- ・ ドラムボイス C/M用プリセットボイス:1

## 使用できるエフェクト

マルチ用インターナル:1

4. サウンドモジュールモード

Single

表示【S】

解説

- ・ TG300をMIDIキーボードの拡張用シングル音源として使用するモードです。
- ・ 他の3つのモードと異なり、このモードでは、TG300の16パートのうちパート2～16は発音しなくなり、パート1だけが発音します。
- ・ ボイスごとにエフェクトの設定を切り替えることができ、積極的な音作りが楽しめます。

使用できるパート数

1

使用できるボイス

- ・ ノーマルボイス                      シングル用プリセットボイス:32  
   GM-B用プリセットボイス:128×15バンク  
   インターナルボイス:128
- ・ ドラムボイス                      ドラムボイスは使用できません。

使用できるエフェクト

シングル用プリセット:32  
シングル用インターナル:16

サウンドモジュールモードを変更すると、ピッチベンドレンジ、MIDI受信チャンネル、プログラムチェンジナンバーが次のように初期化されます。

サウンドモジュールモード	GM-A	GMB	C/M	Single	サウンドモジュールモード	GM-A	GMB	C/M	Single
ピッチベントレンジ(全パート)	2	2	12	2	プログラムチェンジ(パート1)	1	1	off	1
MIDI受信チャンネル(パート1)	1	1	off	1	プログラムチェンジ(パート2)	1	1	69	off
MIDI受信チャンネル(パート2)	2	2	2	off	プログラムチェンジ(パート3)	1	1	49	off
MIDI受信チャンネル(パート3)	3	3	3	off	プログラムチェンジ(パート4)	1	1	96	off
MIDI受信チャンネル(パート4)	4	4	4	off	プログラムチェンジ(パート5)	1	1	79	off
MIDI受信チャンネル(パート5)	5	5	5	off	プログラムチェンジ(パート6)	1	1	42	off
MIDI受信チャンネル(パート6)	6	6	6	off	プログラムチェンジ(パート7)	1	1	4	off
MIDI受信チャンネル(パート7)	7	7	7	off	プログラムチェンジ(パート8)	1	1	111	off
MIDI受信チャンネル(パート8)	8	8	8	off	プログラムチェンジ(パート9)	1	1	123	off
MIDI受信チャンネル(パート9)	9	9	9	off	プログラムチェンジ(パート10)	1	1	128	off
MIDI受信チャンネル(パート10)	10	10	10	off	プログラムチェンジ(パート11)	1	1	28	off
MIDI受信チャンネル(パート11)	11	11	11	off	プログラムチェンジ(パート12)	1	1	30	off
MIDI受信チャンネル(パート12)	12	12	12	off	プログラムチェンジ(パート13)	1	1	1	off
MIDI受信チャンネル(パート13)	13	13	13	off	プログラムチェンジ(パート14)	1	1	39	off
MIDI受信チャンネル(パート14)	14	14	14	off	プログラムチェンジ(パート15)	1	1	14	off
MIDI受信チャンネル(パート15)	15	15	15	off	プログラムチェンジ(パート16)	1	1	47	off
MIDI受信チャンネル(パート16)	16	16	16	off					

## 5.パートモード

TG300をマルチ音源として使用するとき、各パートにノーマルボイスとドラムボイスのどちらのボイスを使用するかを設定するのがパートモードです。

パートモードの設定は「マルチパートエディット」をご覧ください。(→..P58)

## ノーマルモード

- ・パートモードをノーマルにすると、本体の操作や、バンクセレクトとプログラムチェンジによってノーマルボイスだけが選べる状態になります。
- ・エディットメニューには、ボイスエディット、ボイスコピーのメニューが表示されます。

## ドラムモード

- ・パートモードをドラムにすると、バンクは固定され、本体での操作や、プログラムチェンジでドラムボイスが選べる状態になります。
- ・エディットメニューには、ドラムセットアップエディットのメニューが表示されます。
- ・また、マルチパートエディットのモノ/ポリの設定が無効になります。



TG300では、サウンドモジュールモードの設定によって、設定できるパートモードに制限があります。

## GM-A/GM-B

- ・各パートとも自由にノーマルモード、ドラムモードに設定することができます。
- ・複数のパートをドラムモードに設定して、別のドラムボイスを選ぶこともできます。
- ・初期状態では、パート10がドラムモードになっています。

## C/M

- ・各パートのパートモードは初期状態に固定されていて、変更することはできません。
- ・初期状態は、パート10がドラムモード、他のパートがノーマルモード、パート1がOFFに設定されています。

## Single

- ・パート1がノーマルモードに固定されており、ドラムボイスを使用することはできません。
- ・パート2～16はOFFになっています。

ノーマルボイスとドラムボイスの詳細は、「エディットの考え方」をご覧ください。(→..P102)

## 6. 最大同時発音数について

### 6. 最大同時発音数について

- ・TG300は、1エレメント構成のボイスで最大32音、2エレメント構成のボイスで最大16音まで同時に発音することができます。
- ・TG300を拡張音源として使用するときはこの程度の同時発音数があれば充分ですが、シーケンサーやコンピュータのマルチ音源としてアンサンブル曲を演奏するときは、各パートに設定した音色のエレメント数と実際に発音させる音数を考えて、曲データを作る必要があります。
- ・最大同時発音数を越えた演奏データが送られてくると、発音中の音を途中で切って発音を止め、後から送られてきたデータを発音する仕組みになっています。(この仕組みを後着優先といいます。)
- ・その場合、曲の主要な音が途切れてしまうと不自然な演奏になってしまいます。
- ・このようなことを最小限に抑さえるために、パートの発音優先順位と、エレメントリザーブ機能を備えています。

#### パートの発音優先順位



TG300は、32エレメントの発音数を越えると、後から送られてきた音を優先するため、すでに鳴っている音を順番に消します。そのとき、発音優先順位の低いパートから順番に音を消す仕組みになっています。

- ・曲作りをするときは、右表の発音優先順位を考えて各パートを決めてください。



たとえば、重要なメロディやベースといったパートは優先順位の高い、パート1や2に割り当てればよいでしょう。

発音優先順位	パート番号
1	10(ドラムパート)
2	1
3	2
4	3
5	4
6	5
7	6
8	7
9	8
10	9
11	11
12	12
13	13
14	14
15	15
16	16

#### エレメントリザーブ

- ・パートの発音優先順位は、優先度を決めるだけですので、発音数を保証するものではありません。したがって、優先度が高いパートでも、音が途切れることがあります。
- ・このようなときには、エレメントリザーブを設定すれば、全体で最大発音数を越えたときもそのパートだけはエレメント数を確保することができます。



たとえば、あるパートのエレメントリザーブを10に設定すると、パートの発音優先順位に関係なくそのパートはエレメント数が10まで確保され、同時発音数はそれ以外のパートで22エレメント使用できることになります。最大同時発音数が32エレメントということを考えに入れて、他のパートのエレメントリザーブを設定するとよいでしょう。

- ・エレメントリザーブの設定は「マルチパートエディット」をご覧ください。(→.P59)

## 7. プログラムチェンジとバンクセレクトについて

TG300は、ピアノをはじめ、ストリングスやブラスなどの楽器音はもちろん、鳥のさえずりや波の音といった効果音、ドラムセットなど、多彩な音色プログラムを内蔵しています。TG300では、これらの音色のことをボイスと呼んでいます。

ボイスは、用途によって大きくノーマルボイスとドラムボイスに分けられます。

また、ボイスメモリーの種類によって、インターナルボイス、GM-A用プリセットボイス、GM-B用プリセットボイス、C/M用プリセットボイス、Single用プリセットボイスの5種類に分けることができます。

TG300では、これらのボイスをバンクセレクトとプログラムナンバーを設定することによってパートごとに呼び出せる仕組みになっています。

ただし、サウンドモジュールモードによって、呼びだせるボイスに制限があります。また、同じ音を呼び出す場合でも、サウンドモジュールモードやマルチパートエディットの表示モードによって設定が違ってきます。

ここでは、サウンドモジュールモードごとに呼びだせるボイスの種類について説明します。

設定方法など詳細については「マルチパートエディット」をご覧ください。(→..P58.P66)

## GM-Aモード

- ・ ノーマルパートでは、バンク(GM-A用の7種類とInt.の1種類)とプログラムナンバーを設定しボイスを選びます。
- ・ バンク0には最も標準的な音がいっています。
- ・ バンクを変えることで音のバリエーションが選べます。
- ・ ドラムパートでは、バンクはFixと表示され、プログラムナンバーのみ設定します。

## GM-Bモード

- ・ ノーマルパートでは、バンク(GM-B用の15種類とPre.Int.の2種類)とプログラムナンバーを設定しボイスを選びます。
- ・ バンク0には最も標準的な音がいっています。
- ・ バンクを変えることで音のバリエーションが選べます。
- ・ ドラムパートでは、バンクはFixと表示され、プログラムナンバーのみ設定します。

## C/Mモード

- ・ パート1～9のためにC/M用128ボイス(Type 1)、パート11～16のためにC/M用64ボイス(Type 2)が準備されています。
- ・ パート10はドラムパートに固定されています。1ドラムボイスが固定されていて選ぶ必要がありません。

## Singleモード

- ・ パート1にバンク(Pre.Int.の2種類とGM-B用の15種類)とプログラムナンバーを設定しボイスを選びます。
- ・ Singleでは、パートモードをドラムにすることができません。

## 8.TG300の基本操作

### 8.TG300の基本操作

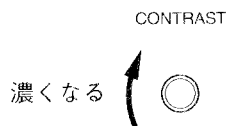
#### ディスプレイを見やすくする

##### 解説

- ・ 操作する場所の照明の状態などでディスプレイが見えにくいときは、次の操作でコントラストを調節してください。

##### 操作

- ・ ディスプレイを見ながら、リアパネルのコントラスト調節つまみで調節します。



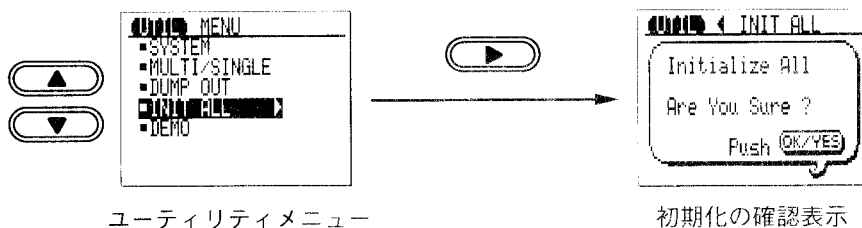
#### 初期化する

##### 解説

- ・ TG300をいろいろ触っているうちに中の設定が変わってしまった場合、イニシャライズという操作を行うことで初期状態に戻すことができます。

##### 操作

1. [UTIL]キーを押して、ユーティリティメニューを表示します。
2. [▲/▼]キーでカーソルを「INIT ALL」に移動し、[▶]キーを押します。



ユーティリティメニュー

初期化の確認表示

3. 「Are You Sure?」という表示に対して、[OK/YES]キーを押します。



CAUTION

初期化を実行すると、それまでの設定はすべて消えてしまいます。

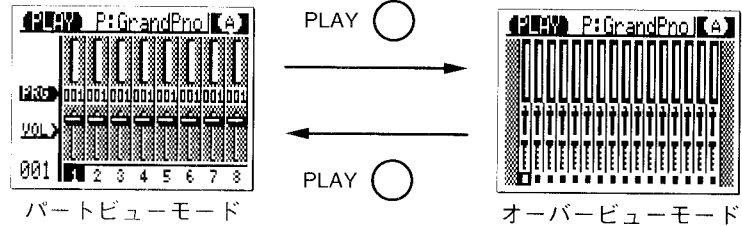
#### カーソルとは

- ・ ディスプレイの表示の中には、黒く反転している箇所が必ずあります。この黒い反転をカーソルと呼び、カーソルのある箇所が今選ばれているコマンドおよびパラメーターになります。
- ・ カーソルは、画面によって、カーソルキー、ページ/パートキーで移動することができます。

## モードの選択

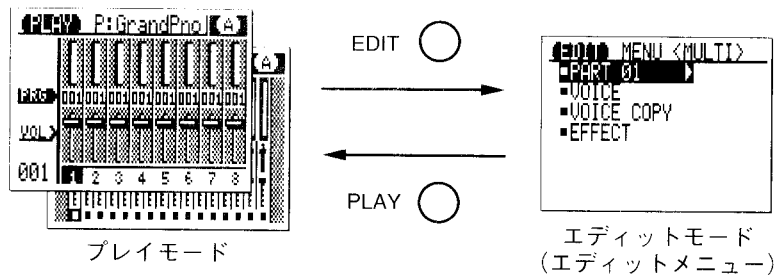
### 1. プレイモード

・[PLAY]キーを押します。



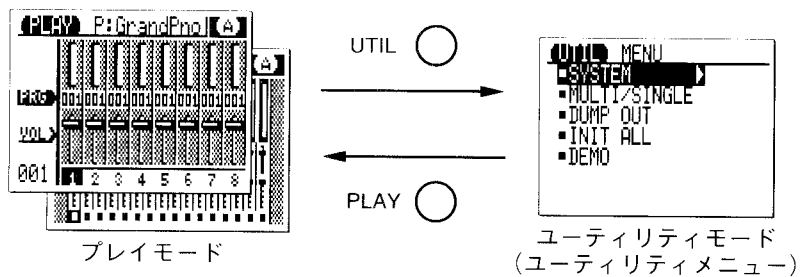
### 2. エディットモード

・[EDIT]キーを押します。



### 3. ユーティリティモード

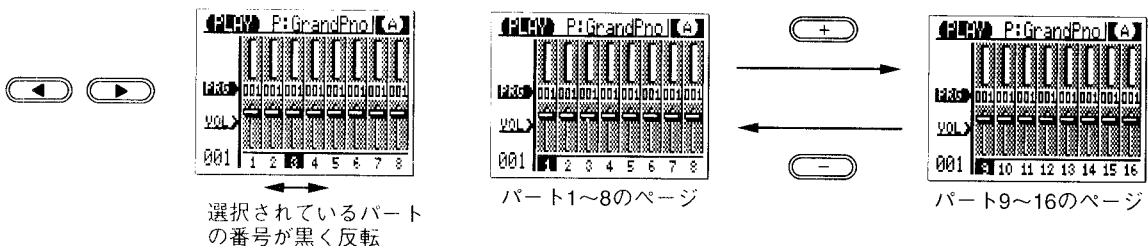
・[UTIL]キーを押します。



## パートの選択

### 1. プレイモード (パートビュー)

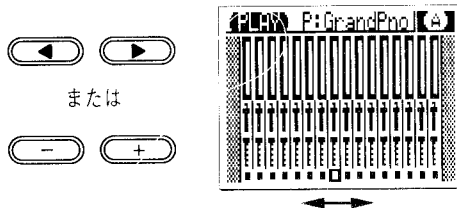
- ・[◀|▶]キーで、パートが1つずつ切り替わります。
- ・[1|16]キーで1-8、9-16のページが切り替わります。



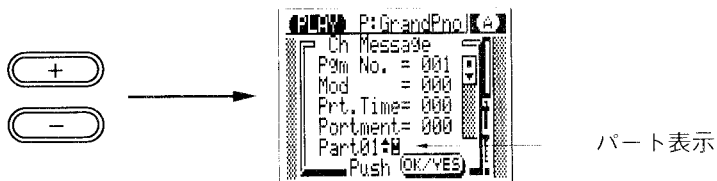


## 8.TG300の基本操作

- ・プレイモード（オーバービュー）では[◀/▶]も[+/-]も同様にパートを切り替えることができます。

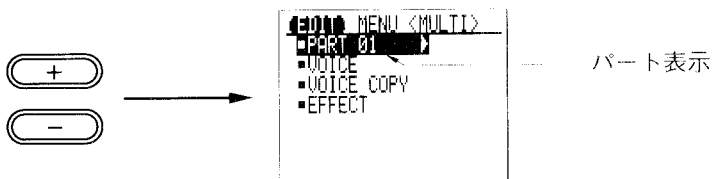


- ・MIDIチャンネルメッセージモニターでは、[+/-]キーでパートが切り替わります。



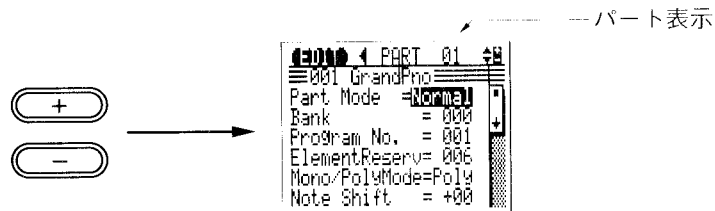
### 2. エディットモード

- ・[+/-]キーで、パートが切り替わります。



### 3. マルチパートエディット

- ・[+/-]キーで、パートが切り替わります。



[+/-]キーの操作をするとき、ページ／パート表示の右に次のような表示が表われます。

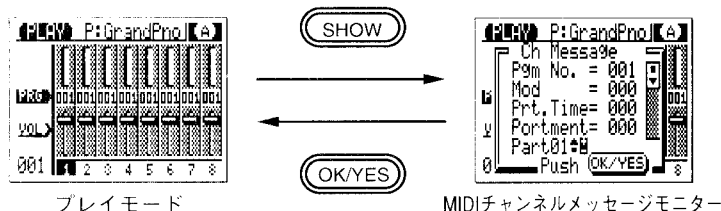


[+/-]キーを押すことでページやパートを変更できます。

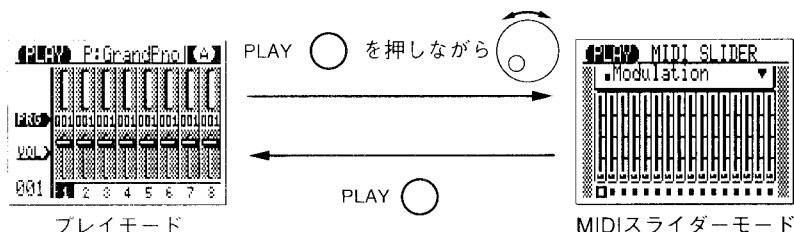
## サブモードの選択

## 1. プレイモード

- ・[SHOW]キーを押すとMIDIチャンネルメッセージモニターに入ります。  
[OK/YES]キーを押すと元に戻ります。

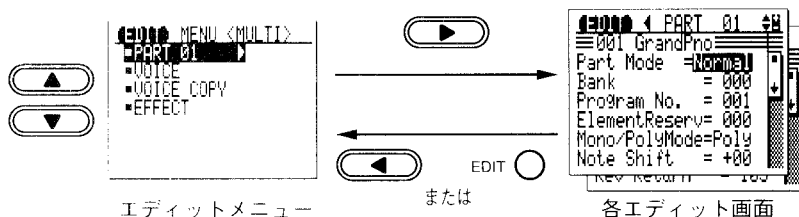


- ・[PLAY]キーを押しながらダイヤルを回すと、MIDIスライダーモードに入ります。

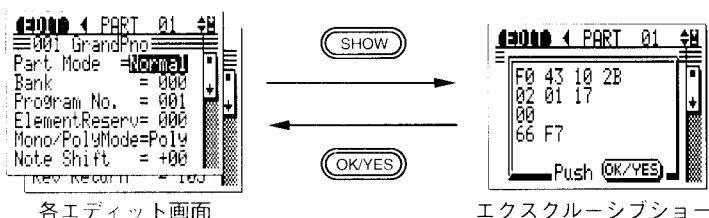


## 2. エディットモード

- ・エディットメニューで、[▲]/[▼]キーでカーソルを移動し、[▶]キーを押すと、サブモードの各エディット画面に入ります。  
また、ボイスコモンエディットやエフェクトコモンエディットの▶のついているパラメーターにカーソルを移動し、[▶]キーを押すと、更にサブモードに入ることができます。



- ・[◀]キーまたは[EDIT]キーを押すと、エディットメニューに戻ります。
- ・各エディット画面で[SHOW]キーを押すと、エクスクルーシブショーに入ります。  
[OK/YES]キーを押すと元に戻ります。

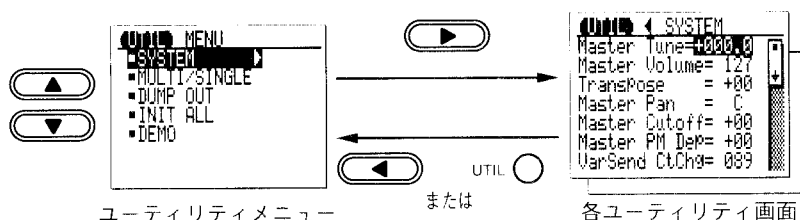


エディットメニューやボイスネームのエディットの画面では、[SHOW]キーを押してもエクスクルーシブショーには入れません。

## 8.TG300の基本操作

### 3.ユーティリティモード

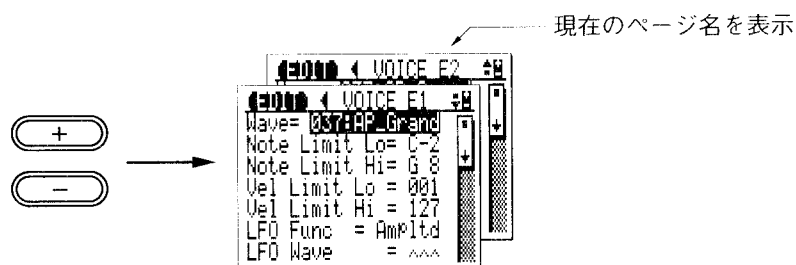
- ・ユーティリティメニューで、[▲/▼]キーでカーソルを移動し、[▶]キーを押すと、サブモードの各ユーティリティ画面に入ります。
- ・[◀]キーまたは[UTIL]キーを押すと、ユーティリティメニューに戻ります。



### ページの選択

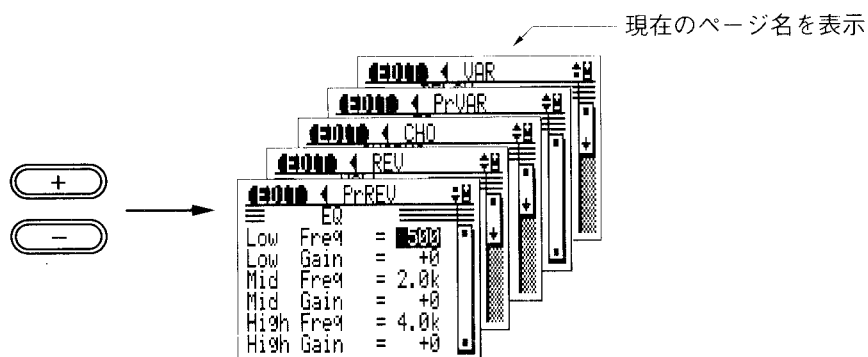
#### 1.ボイスエレメントエディット

- ・[+]/[-]キーで、ページが切り替わります。



#### 2.エフェクトパラメーターエディット

- ・[+]/[-]キーで、ページが切り替わります。



## データの入力

### 解説

・TG300では、データ入力を次の方法で行います。

### 操作

1. **[↑/↓]**キーを押して、カーソルを目的のパラメーターに移動します。



**[↑/↓]**キーを押しながら別のキーを押すと、カーソルの移動が速くなります。(→..P44)

2. ダIALで、データを入力します。



ダイヤルを回す速さでデータの変化が速くなります。  
また、**[OK/YES]**キーを押しながらダイヤルを回すと、データの変化が、更に速くなります。(→..P44)

## YES/NOの入力

### 解説

・TG300では、「Are You Sure?」もしくは「Sure?」に対するYESやNOを次の方法で入力します。

### 操作

・YES . . . . . **[OK/YES]**キー

・NO . . . . . **[←]**キー

NOの場合のキー操作は、メニューに戻る操作と同じです。

## トップ画面に戻る

### 解説

・サブモードやエディットパラメーターに入り込んで、操作に迷ってしまったときは、次の方法で、各モードのトップ画面に戻ることができます。

### 操作

・**[PLAY]**キーを押します。 . . . プレイモード

・**[EDIT]**キーを押します。 . . . エディットメニュー

・**[UTIL]**キーを押します。 . . . ユーティリティメニュー

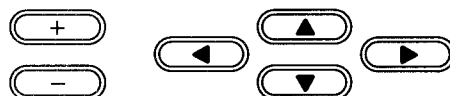
## 便利なキー操作

TG300をより効率的に操作するため、知っておくと便利なキー操作について説明します。

### オートリピート機能

・**[↑/↓]**キー、**[↑/↓/←/→]**キーには、オートリピート機能が備わっています。

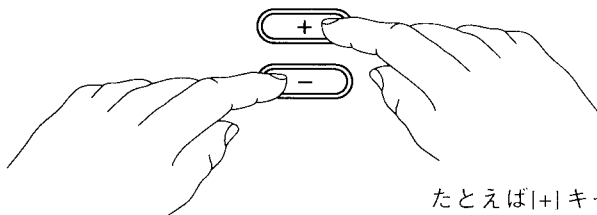
・パラメーターを探したり、パートを変更するとき、各キーを押し続けることで何度も押すのと同じ効果を得ることができます。



## 8.TG300の基本操作

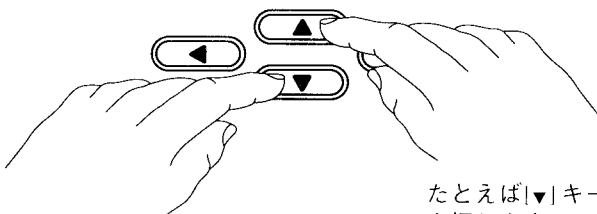
### オートリピートの加速機能

- ・|+|/|-|キー、|▲|/|▼|/|◀|/|▶|キーには、オートリピートのスピードを速くする機能があります。
- ・|+|/|-|キーの場合、オートリピート機能を使用しているとき、押されていない方のキーを押すことで変化が加速されます。



たとえば|+|キーを押しながら|-|キーを押します。

- ・|▲|/|▼|/|◀|/|▶|キーの場合、1つのキーのオートリピート機能を使用しているとき、押されていないキーのどれかを押すことで、加速されます。



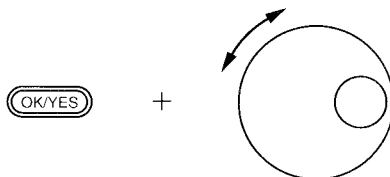
たとえば|▼|キーを押しながら|▲|キーを押します。



キーが押さえにくい場合は、カーソルキー、ページ/パートキーどちらの場合も、オートリピートで押されているキー以外の任意のキー(|PLAY|キー、|EDIT|キー、|UTIL|キー、|OK/YES|キー、|SHOW|キーなど)を押すことで変化が加速されます。

### ダイアルの加速機能

- ・ダイアルにも変化を加速する機能がついています。  
この機能は、エディットモードとシステムセットアップでのみ有効です。
- ・ダイアルを速くまわすと、値が大きく増減します。
- ・|OK/YES|キーを押しながらダイアルを速くまわすと、更に大きく値が増減します。



# 第3章 プレイモード

## 3

この章では、プレイモードについて説明します。機能や、ディスプレイの表示について説明します。

- 1. パートビューモード . . . . . 46
- 2. オーバービューモード . . . . . 48
- 3. MIDI チャンネルメッセージモニター . . . . . 50

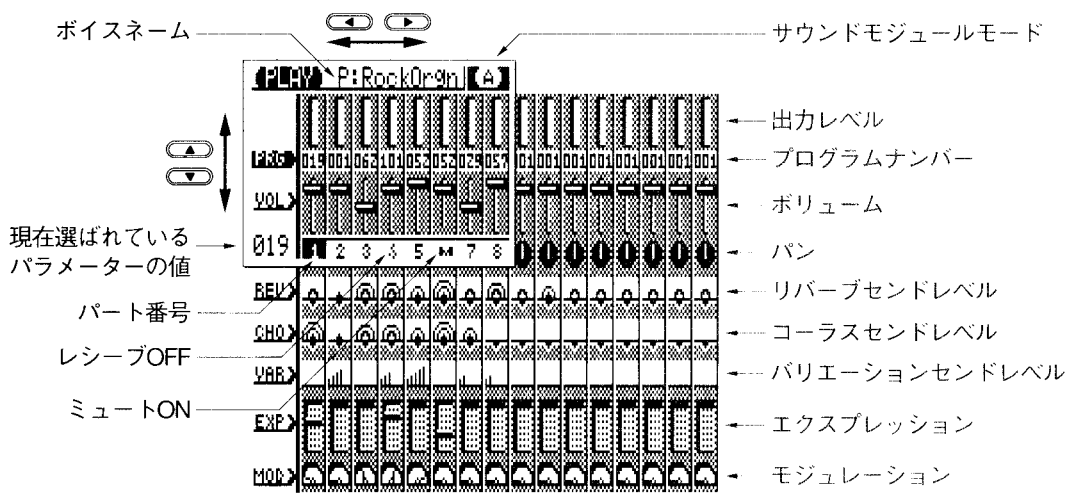
MIDI スライダーモードについては、「その他の機能」をご覧ください。(▶ P94)

1.パートビューモード

1.パートビューモード

手順

- ①プレイモードで[PLAY]キーを押します。  
(電源を入れた直後はパートビューモードになっていますので、押す必要はありません。)
- ②もう1度[PLAY]キーを押すとパートビューモードからオーバービューモードに切り替わります。



解説

- ・TG300を演奏するとき、パートごとの各設定のできる画面モードです。
- ・MIDI端子から入ってきた次の9種類のMIDI情報をディスプレイに表示します。
- ・出力レベルを除く8種類のパラメーターをパートごとに設定できます。

MIDI情報の種類	情報の意味
出力レベル	MIDI情報を受けたときの出力レベルを表示します。
プログラムナンバー	ボイス番号を表示します。
ボリューム	パートの音量を表示します。
パン	音の定位を表示します。
リバーブセンドレベル	リバーブエフェクトへの送りの量を表示します。
コーラスセンドレベル	コーラスエフェクトへの送りの量を表示します。
バリエーションセンドレベル	バリエーションエフェクトへの送りの量を表示します。
エクスプレッション	曲中での細かい音量変化を表示します。
モジュレーション	モジュレーションホイールを回した量を表示します。

- ・ディスプレイには2箇所にカーソルがあります。  
1つは、ディスプレイの一番下の段(パート番号)にあり、現在選ばれているパートを表します。  
もう1つは、ディスプレイの一番左の列(パラメーター名)にあり、現在選ばれているパラメーターを表します。
- ・パラメーターの値はグラフィックで確認でき、さらに詳しく見たいパラメーターの行と列にカーソルを移動するとディスプレイ左下に数値で正確に表示します。
- ・またその数値をダイヤルで変更することでパートごとの値を設定します。
- ・ここで変更した値はマルチパートエディットのパラメーター設定値と同じ値になります。

- ・ディスプレイの1行目には、カーソルで選んでいるパートのボイスネームを表示します。
- ・ディスプレイの右上には、現在選んでいるサウンドモジュールモードを省略形で表示しています。

【A】・・・GM-Aモード  
 【B】・・・GM-Bモード  
 【C】・・・C/Mモード  
 【S】・・・Singleモード

- ・エクススクリープデータを受信したときは、サウンドモジュールモードの表示と同じ位置に、[EX.]の反転表示が1秒間点滅します。
- ・ディスプレイの最下行の番号は、次のものを表しています。

数字・・・パート番号

M・・・ミュートON状態

破線数字(DIM)・・・パートのMIDIレシーブチャンネルがOFF状態

## 設定

プログラムナンバー	001～128
ボリューム	000～127
パン	Rnd L63～R63 (Cが中央です)
リバーブセンドレベル	000～127
コーラスセンドレベル	000～127
バリエーションセンドレベル	000～127
エクスプレッション	000～127
モジュレーション	000～127
ミュート	ON/OFF

## 操作

パート番号を選ぶには、次の2種類の方法があります。

- 1.[◀/▶]キーを押すと、カーソルが1パートずつ移動し、選ばれているパート番号が切り替わります。それにしただって表示も1パートずつ切り替わります。
- 2.[1/16]キーを押すと、1～8パートと9～16パートの2種類の画面ページが切り替わります。それにしただって、選ばれているパートも8パートずつ移動します。

パラメーターの設定値は、次の方法で変更します。

- 1.[▲/▼]キーを押すと、カーソルが1パラメーターずつ移動し、選ばれているパラメーターが切り替わり、ディスプレイの左下に設定値が表示されます。
- 2.ダイヤルで設定値を変更します。変更した値は、数値とグラフィックの両方で確認することができます。

ミュートのON/OFFを設定します。

- 1.[◀/▶]キーでミュートを設定するパートを選びます。
- 2.[OK/YES]キーを1回押すと、パート番号がMの反転表示に切り替わり、ミュートON状態になります。
- 3.ミュートON状態で、[OK/YES]キーをもう1度押すと、選んでいるパートが数字表示になり、他のパートがMになり、ソロ状態になります。この状態でパートを変更し[OK/YES]キーを押すと、ソロパートが切り替わります。
- 4.ソロパートで[OK/YES]キーを押すと、元の状態に戻ります。



パート番号が破線数字(DIM)になっているパートは、マルチパートエディットでレシーブチャンネルがOFFに設定されています。

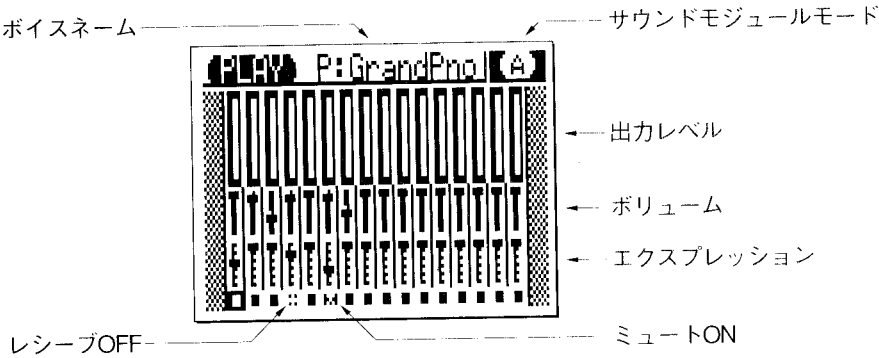


2. オーバービューモード

2. オーバービューモード

手順

- ①プレイモードで[PLAY]キーを押します。  
(電源を入れた直後はパートビューモードになっており、1度[PLAY]キーを押します。)
- ②もう1度[PLAY]キーを押すとオーバービューモードからパートビューモードに切り替わります。



解説

- ・TG300を演奏するときの全パートを見渡せる画面モードです。
- ・MIDI IN端子から入ってきた次の3種類のMIDI情報をディスプレイに表示します。

MIDI情報の種類	情報の意味
出力レベル	MIDI情報を受けたときの出力レベルを表示します。
ボリューム	パートの音量を表示します。
エクスプレッション	曲中での細かい音量変化を表示します。

- ・このモードでは、ミュートON/OFFとソロ機能が設定可能です。パートビューモードのように各パラメーターの設定を変更することはできません。
- ・ディスプレイの1行目には、カーソルで選んでいるパートのボイスネームを表示しています。
- ・ディスプレイの右上にサウンドモジュールモードを省略形で表示しています。  
【A】・・・GM-Aモード  
【B】・・・GM-Bモード  
【C】・・・C/Mモード  
【S】・・・Singleモード
- ・エクススクルーシブデータを受信したときは、サウンドモジュールモードの表示と同じ位置に、[EX]の反転表示が1秒間点滅します。
- ・ディスプレイの最下行は、次のものを表しています。

設定

- ミュートOFF状態
- M ミュートON状態
- ⋮ パートのMIDIレシーブチャンネルがOFF状態

## 操作

1. ◀/▶キーまたは[+]/[-]キーを押すと、ディスプレイの一番下の■の反転表示が移動します。これは、現在選ばれているパートを示しています。
2. [OK/YES]キーを1回押すと、現在選ばれているパートの記号がMの反転表示に替わり、ミュートON状態になります。
3. ミュートON状態で[OK/YES]キーをもう1度押すと、選んでいるパートが■の反転表示になり、他のパートがMと表示され、ソロ状態になります。  
この状態でパートを変更し[OK/YES]キーを押すと、ソロパートが切り替わります。
4. ソロパートで[OK/YES]キーを押すと、元の状態になります。



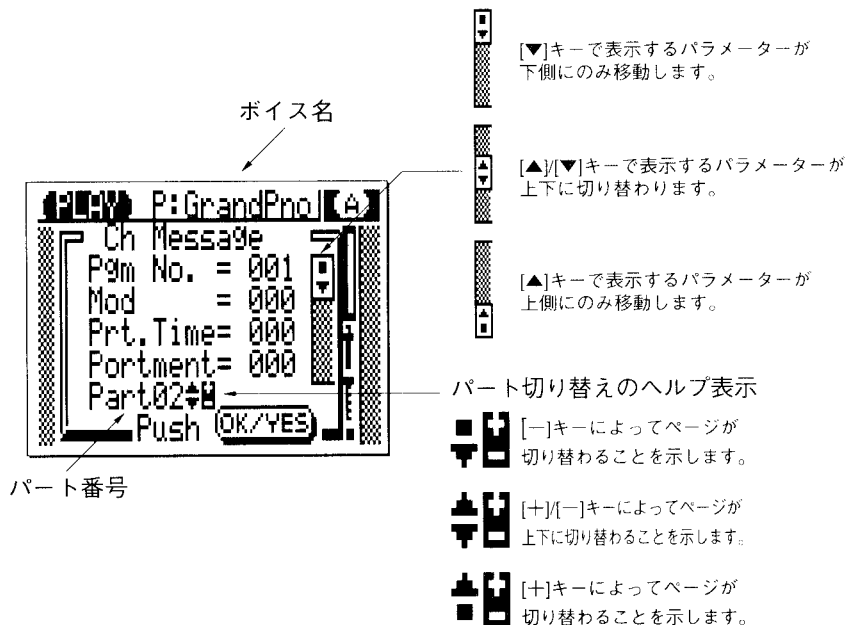
レシーブOFFに設定されているパートは、マルチパートエディットでレシーブチャンネルがOFFに設定されています。この場合ミュートの設定はできません。(→..P61)

### 3.MIDIチャンネルメッセージモニター

#### 3.MIDIチャンネルメッセージモニター

##### 手順

- ①[PLAY]キーを押してプレイモードに入ります。  
・パートビューモードでもオーバービューモードでも構いません。
- ②[◀/▶]キーでMIDI情報を確認したいパートを選びます。
- ③[SHOW]キーを押すとチャンネルメッセージモニターに入ります。
- ④[OK/YES]キーを押すとプレイモードに戻ります。



##### 解説

- ・ウィンドウの一番上の部分には、チャンネルメッセージモニターに入った時点でのボイスネームを表示しています。
- ・この画面では、現在選んでいるパートが受信したMIDIチャンネルメッセージの値を10進数(プログラムナンバー：001~128、それ以外：000~127)で表示します。
- ・このモードでは、データを変更することはできません。
- ・表示するパラメーターは次の一覧表の通りです。



ウィンドウの下の部分には、現在選ばれているパートを表示します。パート番号は[+]/[-]キーで変更することもできます。

表示	パラメーターネーム[コントロールナンバー]
Pgm No.	プログラムナンバー
Mod	モジュレーションデプス [1]
Prt.Time	ポルタメントタイム [5]
Portment	ポルタメント [65]
Vol	メインボリューム [7]
Exp	エクスプレッション [11]
Pan	パンポット [10]
Rev Send	リバーブセンドレベル [91]
Cho Send	コーラスセンドレベル [93]
Var Send	バリエーションセンドレベル [89]
RPN MSB	レジスタードパラメーターナンバー-MSB [101]
RPN LSB	レジスタードパラメーターナンバー-LSB [100]
Data MSB	データエントリー-MSB [6]
Data LSB	データエントリー-LSB [38]
Bank MSB	バンクセレクトMSB [0]
Bank LSB	バンクセレクトLSB [32]
Soft	ソフトペダル [67]
MonoPoly	モノ/ポリ [126/127]
CAT	チャンネルアフタータッチ
Bnd MSB	ピッチベンドチェンジMSB
Bnd LSB	ピッチベンドチェンジLSB

